

2026

経済産業省

内定者BOOK



経済産業省

Ministry of Economy, Trade and Industry

目次

Part
1

内定者データ

p. 3

Part
2

経産省の官庁訪問

p. 7

官庁訪問とは？	8
1日の過ごし方	11
官庁訪問の準備	12
官庁訪問当日	15
官庁訪問を終えて	17
内定者座談会	19

Part
3

内定者の就活

p. 21

内定者の併願データ	22
ここと迷ってMETIにしました	23
内定者の就活スケジュール	31
内定者のおすすめイベント	32
内定者座談会	33

Part
4

地方在学者の就活

p. 35

地方在学者の割合	36
地方在学者の出費	37
内定者座談会	39

Part
5

特集

p. 41

採用担当者スペシャルインタビュー	42
産休・育休とキャリア	47
若手職員インタビュー	48

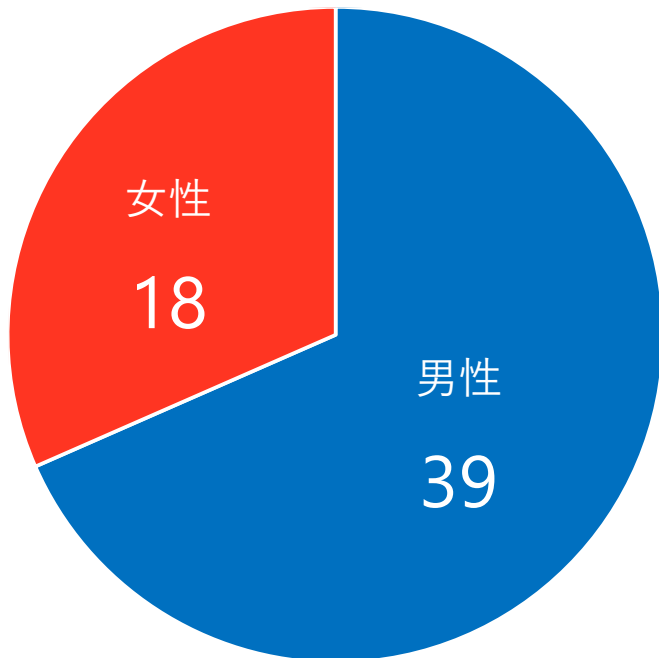
1

内定者データ

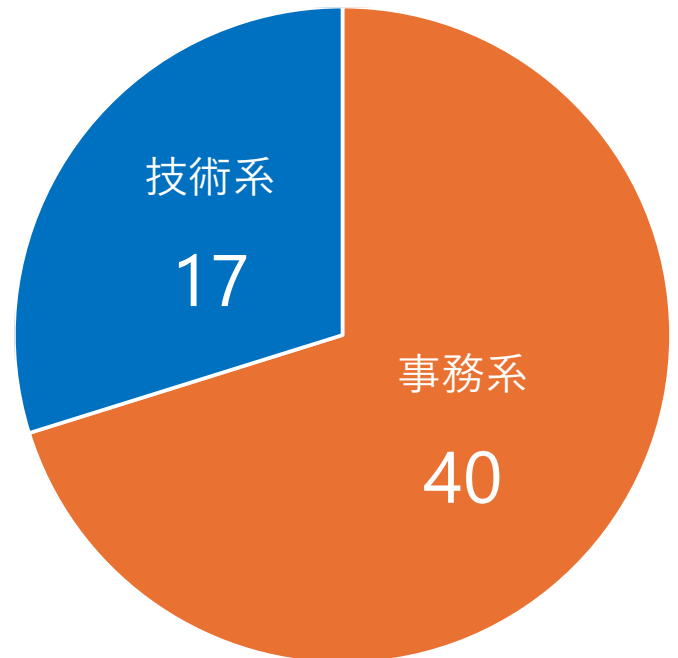
内定者データ

1

性別



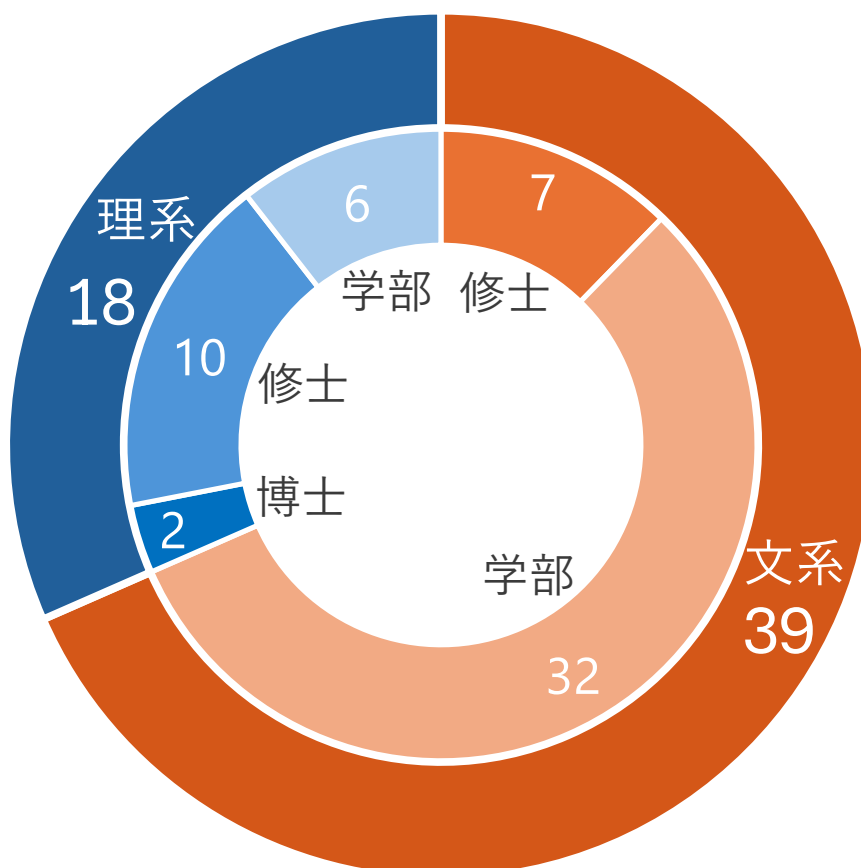
採用区分



2

3

学歴区分

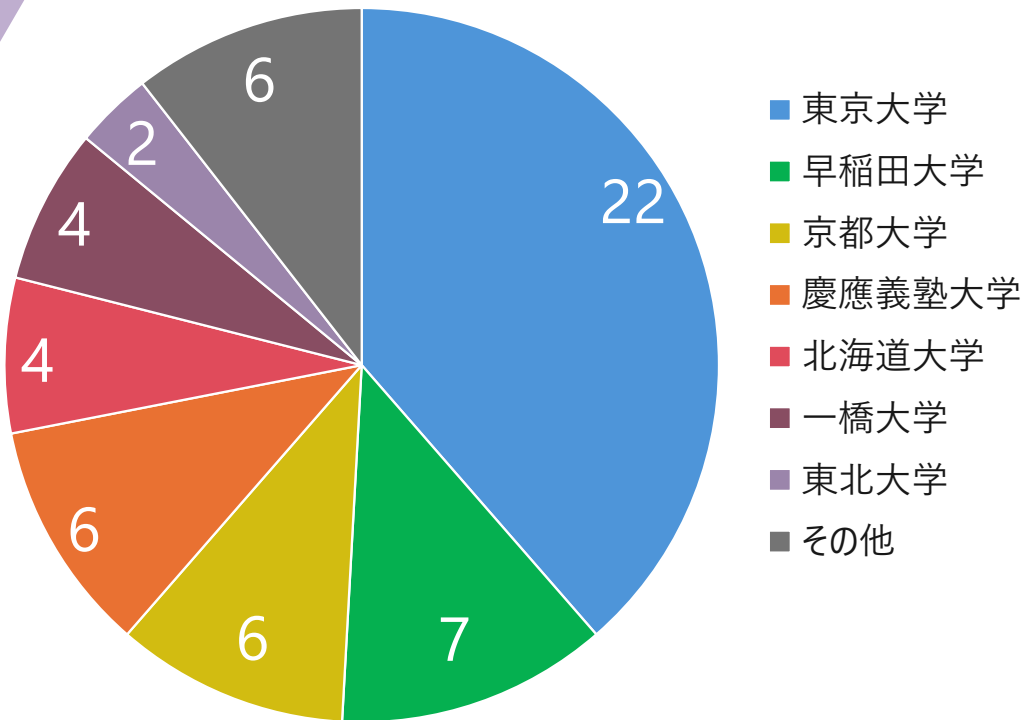


4

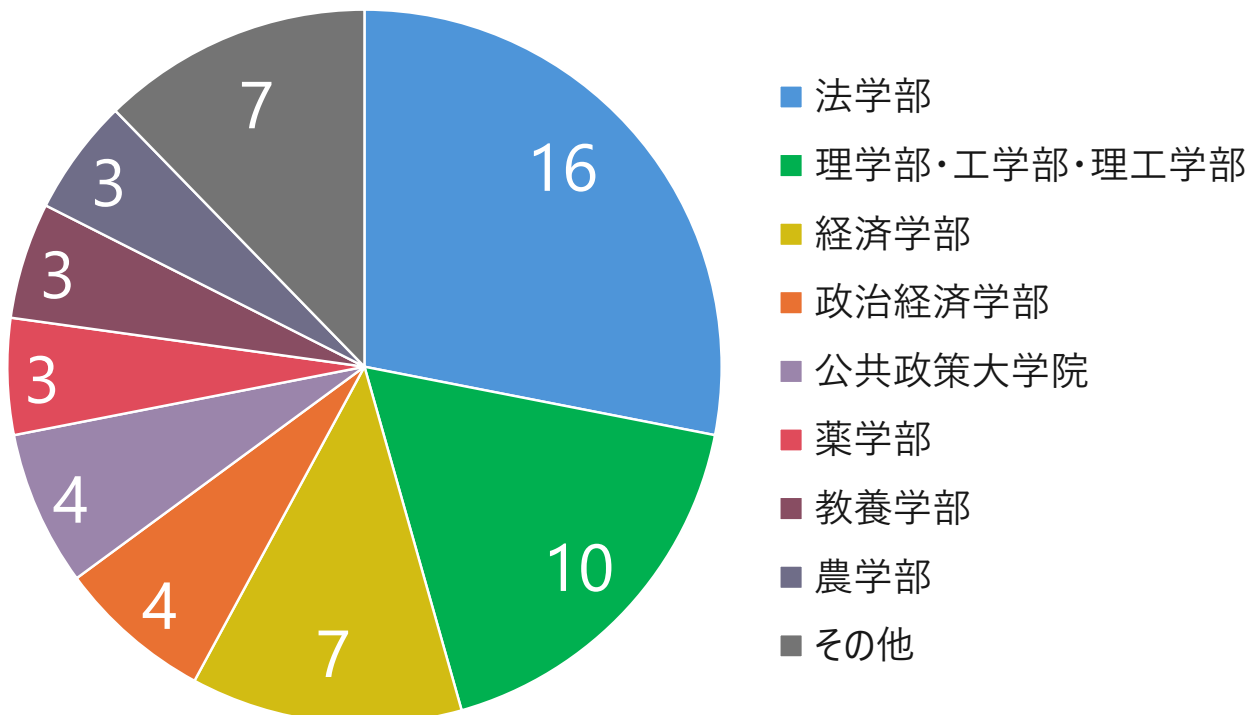
特集

内定者データ

出身大学



出身学部



1

2

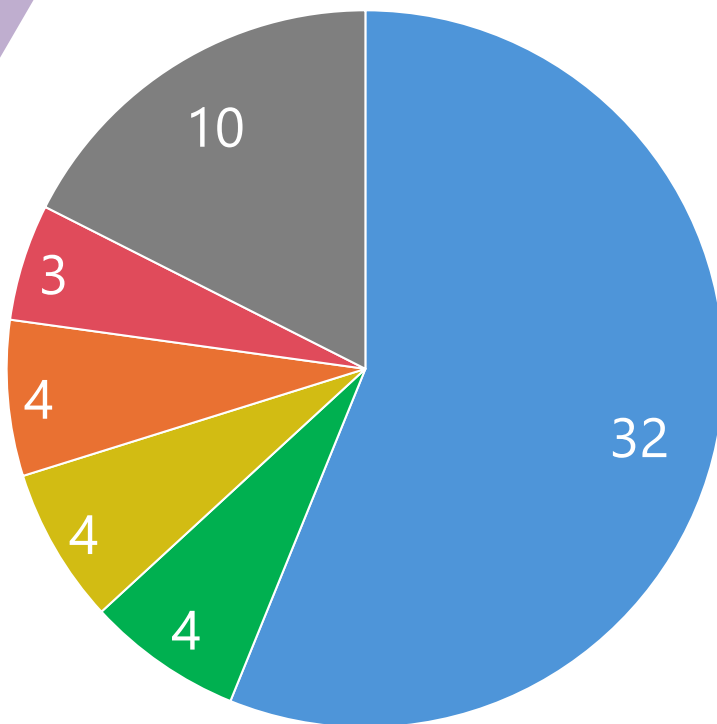
3

4

特集

内定者データ

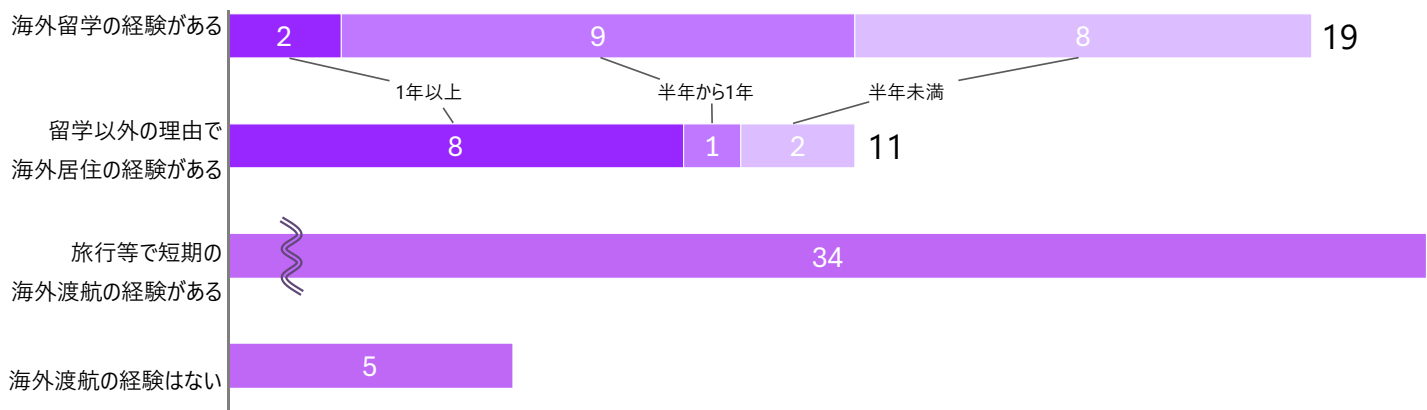
試験区分



- 【大卒】教養
- 【院卒】工学
- 【院卒】行政
- 【院卒】化学・生物・薬学
- 【大卒】政治・国際・人文
- その他
 - 【大卒】法律（2名）
 - 【大卒】工学（2名）
 - 【大卒】経済（2名）
 - 【院卒】法務（1名）
 - 【大卒】数理学・物理・地球科学（1名）
 - 【大卒】森林・自然環境（1名）
 - 【大卒】化学・生物・薬学（1名）

海外経験

総数: 57名



2

経産省の
官庁訪問

経産省の官庁訪問

官庁訪問とは？



官庁訪問は、第1クールから第4クールまでの4つの期間に分かれています。採用プロセスが順調に進み、第4クールまで通過できると、晴れて内々定が言い渡されることになります！

（表は2025年度のスケジュールをもとに作成しています。）

例年、通常の官庁訪問の1週間ほど前に技術系既合格者向け官庁訪問が実施されています。官庁訪問の前年度以前に技術系の試験区分で合格している人が挑戦できます。

各クールについて

国家総合職最終合格・訪問予約

第1クール

1日目 2日目 3日目

第2クール

1日目 2日目 3日目

第3クール

1日目 2日目

第4クール

1日目

内々定通知！

まずは、国家総合職試験の最終合格が必要です。合格すると、各省庁へ官庁訪問の予約申込ができます。

第1クールでは、3省庁を選んで訪問できます。選考を通過すると、第2クールに進むことができます。

第2クールも、3省庁を訪問できます。選考を通過すると、第3クールに進むことができます。

第3クールでは、2省庁を訪問することが可能です。省庁によっては、第3クールの2日目を実施しないところもあります。

第4クールは、1省庁のみ訪問可能です。この日の夕方以降、内々定通知を受け取ることになります。

官庁訪問の流れは年度によって変更される可能性があります。正確な情報を得るためにも、経産省や人事院のホームページを定期的にチェックすることをオススメします！

経産省の官庁訪問

官庁訪問用語集



官庁訪問では、聞き慣れない様々な言葉が使われます。
詳しいスケジュールを見る前に、用語の復習をしましょう！

メンター

官庁訪問の期間中、**相談相手**になってくれる職員の方です。志望動機の練り直しや、学びのブラッシュアップなどのサポートをしてくれます。メンターさんと二人三脚で官庁訪問を乗り越えましょう！

人事面接

一般的な面接です。これまでの経験や志望動機、入省後に取り組みたいこと、最近気になっているニュースなど様々なことを質問されます。しっかりと準備をして、普段通りの自分を見せましょう！

原課訪問

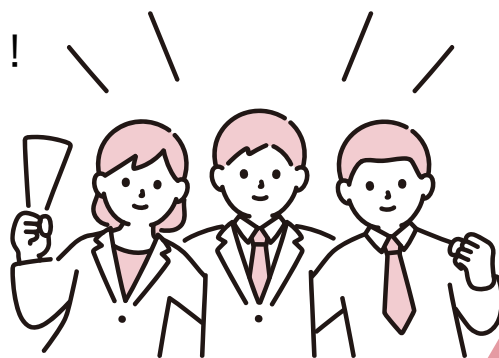
職員の方と1対1で政策内容を学んだり、現状の課題について議論したりします。人事面接に向けて、経産省の「**政策**」や「**人**」を知る良い機会になります！

ブース面談

メンターさんとの面談です。1日に複数回あり、**人事面接や原課訪問の振り返り**をします。1日の最後には、現時点での評価が伝えられます。ブース面談の内容を踏まえて、人事面接や次クールへの対策をしましょう！

官庁訪問では色々な疑問点や悩み事も出てくると思いますが、そんな時は気軽にメンターさんに相談してみましょう。

きっと、アナタの心の支えになるはずです！



1

2

3

4

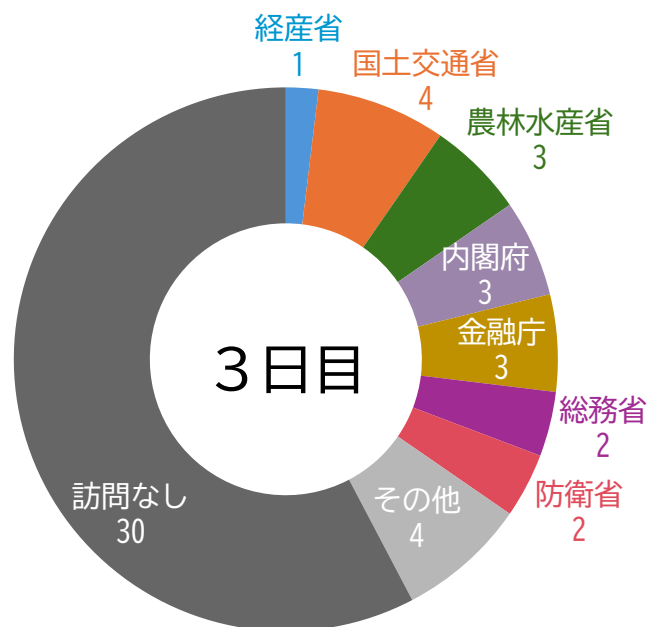
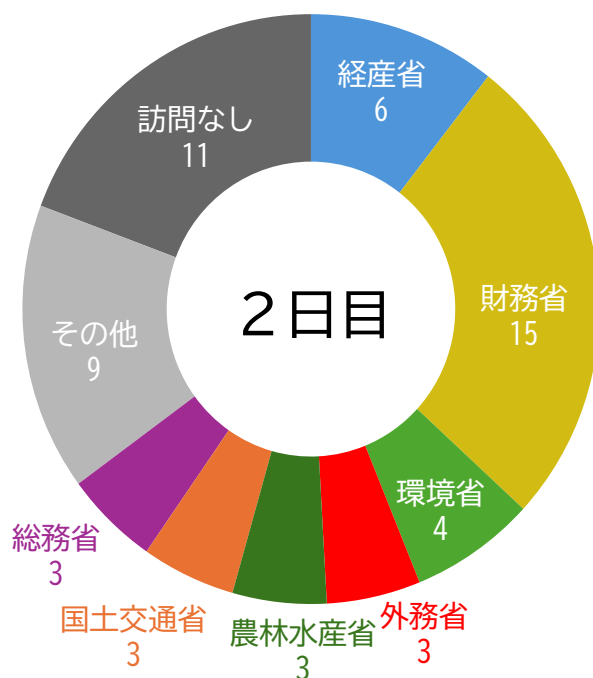
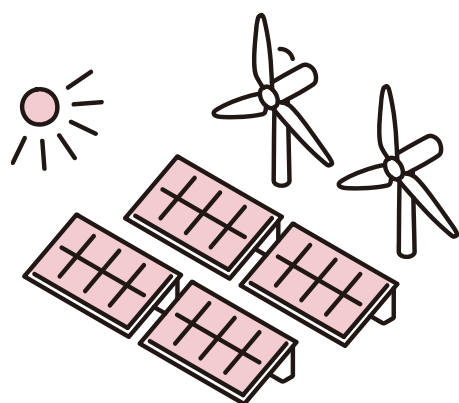
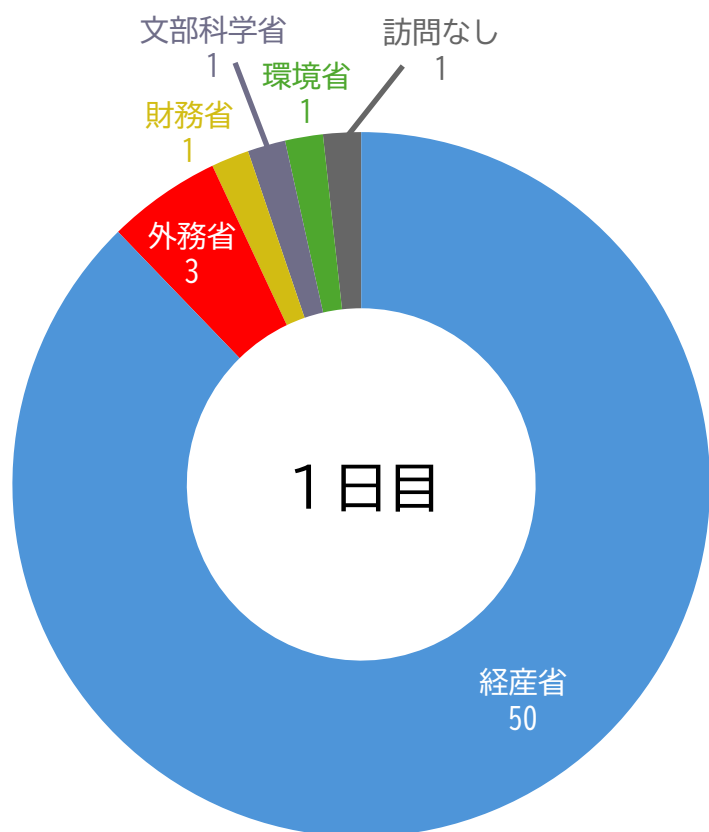
特集

経産省の官庁訪問

各日程での訪問先省庁一覧（単位：人）

経産省の内定者が官庁訪問をどのように回ったか気になる皆さんのために、各日程の訪問順データを公開します！

※内定者57人中、既合格者5名は2日目まで



ご覧の通り、「経産省は1日目でないといけない」ことはなく、どの日程からも内定者が出ています。

また、3日目は「休息日」として訪問しなかった人が多いようです。自分の体力・志望度と相談して、官庁訪問でベストを尽くせるよう、上手に予定を組みましょう！

経産省の官庁訪問

1日の過ごし方

経産省の官庁訪問の流れは、個人によって大きな差がある場合が多いです。ここでは参考として、第1クール1日目の事務系と技術系の内定者のスケジュールを紹介します！



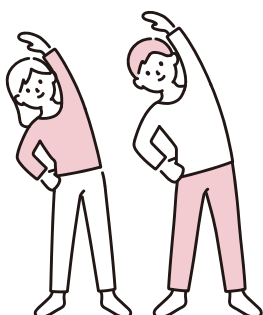
Yさん（大卒・事務系）

8:30	集合
9:00 9:10	メンター面談
10:30 11:00	人事面談
昼食休憩	
14:00 15:00	原課訪問1人目
16:00 17:00	原課訪問2人目
19:00	メンター面談・終了

Hさん（院卒・技術系）

10:20	集合
10:50 11:00	メンター面談
11:30 12:30	原課訪問1人目
昼食休憩	
13:20 13:50	人事面談1人目
16:00 17:00	メンター面談
16:30 17:30	原課訪問2人目
18:40 19:10	人事面談2人目
20:50	メンター面談・終了

事務系と技術系で多少の違いはありますが、形式や大まかな流れは同じです。体調を整え、最高のパフォーマンスを発揮できるようにしましょう！



経産省の官庁訪問

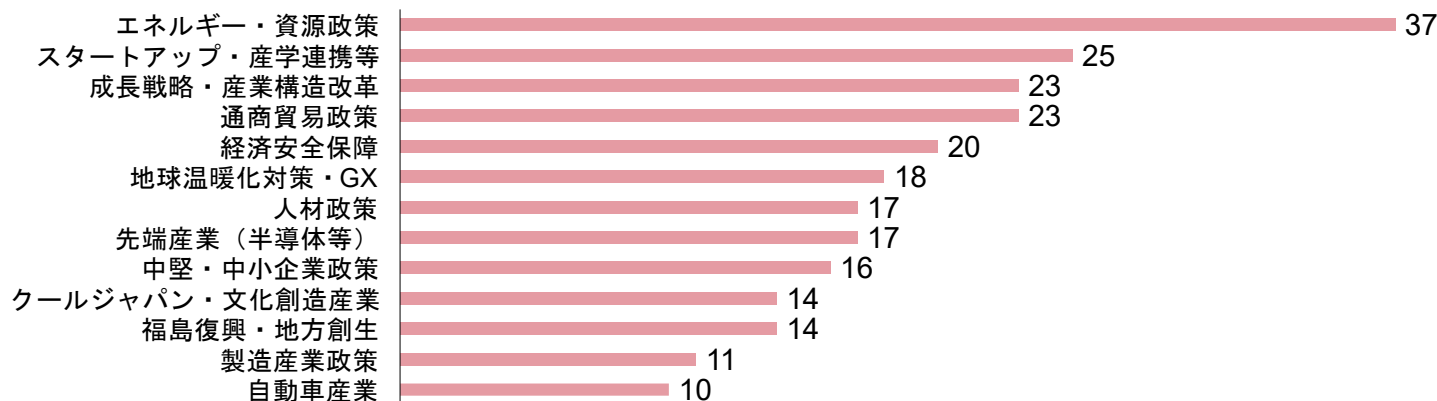
官庁訪問の準備

官庁訪問前に向けて「何をしたらいいんだろう…？」と悩むこともあると思います。そこで、2025年度の内定者が取り組んできた様々な例をデータとともに紹介していきます！

・・・ 調査票って？ ・・・

民間企業で書くエントリーシートに相当します。公務員独自の難しい質問ではなく、志望動機や自己PR、興味のある政策分野、直近で気になった経産省のニュースに対する考え等が問われます。

2025年度内定者の関心政策分野（単位：人）



調査票を作る際、材料の一つとして「関心のある政策分野」について考えることがあるのではないのでしょうか。ここでは、内定者それぞれに関心のある政策分野についてアンケート調査を行ったので、ぜひ参考にしてみてください！



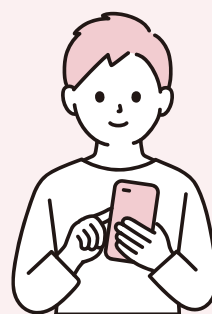
経産省の官庁訪問

調査票や面接の対策は？

官庁訪問前に用意する調査票や面接の回答などに関して、内定者がどのような対策を行っていたのか、紹介します！

調査票

- 採用担当からのアドバイス
- 生成AIを利用した検討及び添削
- 自己分析をして自分を見つめ直す
- 友人に見てもらう
- 日々のニュースを参考に志望動機を固める
- 白書を用いてMETIの政策について理解を深める



原課訪問

- 政策説明会に参加して経産省の様々な政策分野を学ぶ
- 職員座談会に参加して経産省のカルチャーを知る
- 採用パンフレットを読んで経産省のミッションについて考える
- 日々のニュースから時事問題について自分なりに考える
- 内定者BOOKを通じて原課訪問とは何かということを学ぶ
- 過去の説明会の資料から復習をする
- 職員訪問を通じて政策立案の現場を実際に見てみる

政策説明会等の経産省のイベントはオンラインでの開催も多いので、地方在住の方も気軽に参加することをオススメします。

また、最近は生成AIを使って就活を進める人も増えてきているので、様々なツールを上手に使う皆さんの魅力を官庁訪問で伝えられるよう頑張りましょう。Good Luck!

経産省の官庁訪問

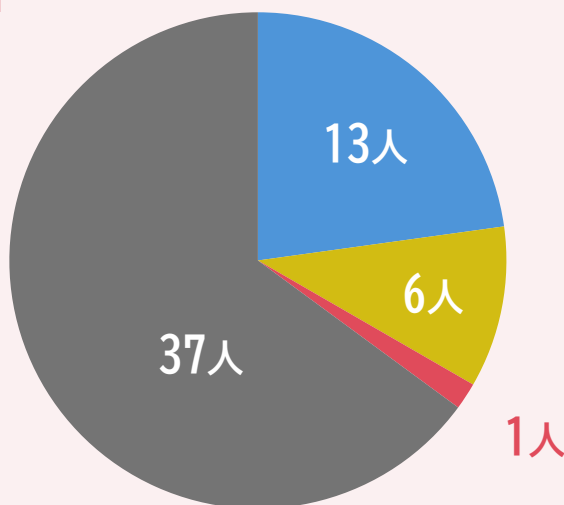
人事面接

- 民間就活で面接慣れをしておく
- 友人や先輩、先生などと模擬面接をする
- 生成AIを用いて面接でのやり取りを練習する
- 想定問答集を作って事前に話すことをまとめておく
- 採用担当と話すことで経産省の雰囲気を知る
- 日常生活の中で印象的だったことについて端的に話せるようにする
- 職員訪問を通じて政策立案の現場を実際に見てみる



Tips：予備校って使った？

- 公務員試験と官庁訪問対策のために予備校を利用した
- 公務員試験対策のために予備校を利用した
- 官庁訪問対策のために予備校を利用した
- 予備校は利用していない



「公務員就活に予備校って必要？」という疑問をお持ちのアナタ！
そんなアナタに予備校の利用状況に関してのデータを公開します。
予備校を使った人もいますが、過半数の人は予備校を使わずに内定を得ていることを踏まえ、ご自身のお財布と性格、必要性に相談して使いましょう！

経産省の官庁訪問

官庁訪問当日



官庁訪問当日に、内定者たちが感じたことを紹介します！

原課訪問

- 原課訪問で職員さんから共有していただく情報があまりにも多く、まだ知らないことも多い中で話に付いていくことが大変でしたが、都度、解説をお願いしたり、自分の理解を確認したりするなど、なるべくその場で解決するように努めました。
- 最前線で働く職員の方と真剣に長い時間話すことで、政策だけでなく、人柄や思い、さらには省の雰囲気まで感じることができました。
- 原課面接で多くの職員と話す中でフラットで風通しのよい文化が根付いていることを感じました。
- 原課訪問で様々な職員の方々から具体的な政策分野のお話を伺う中で、ぼんやり漠然としていた自分の関心政策がよりシャープに磨かれ、「〇〇を実現するために〇〇をしたい」ということが言えるようになりました。

官庁訪問の小ネタ① ～失敗談～

ここでは官庁訪問での失敗談も紹介します。

人間は誰しも失敗することがありますよね…

- 最後のメンター面談にからあげクンを持って行ってしまった。
- 段々と疲れてきて乗るエレベーターを間違えてしまった。
- 原課訪問の際に、降りるフロアを何回も間違えて右往左往してしまった。
- 待機室にあったミャクミャクのぬいぐるみで遊びすぎてしまった。
- 慣れないコンタクトで人事面接に行った際、面接途中で取れてしまった。

たとえ失敗があったとしても次に向けて改善点を見出すことができれば大丈夫！

経産省の官庁訪問

人事面接

- オーソドックスな質問の連続で、どこで評価をつけているのか分からず不安になった。
- 原課訪問を終えるたびに、学んだ政策の内容、自身の意見、志望動機との繋がりをメモとして残すようにしていたことが、人事面接で役立った。
- 人事面接の場で素直に感じたことを言える能力も必要であると感じた。
- 段階を踏むにつれて、原課訪問で学んできたことを上手にまとめて話せるようになった。

メンター面談

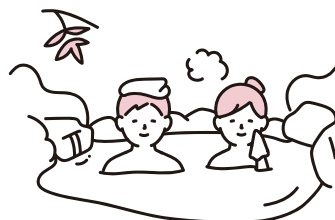
- メンターさんに志望動機を深掘りされ、自分が元々何がしたかったのか分からなくなってしまった。
- メンターさんにしっかりと本音の志望動機を伝えたことで、自信をもってその後のプロセスに進むことができた。
- 志望動機を原課訪問の度にメンターさんとブラッシュアップしたことでよい評価を頂けるようになった。

官庁訪問の小ネタ② ～休日の過ごし方～

ここでは官庁訪問の第一クールと第二クールの間にある土日の過ごし方について紹介します。

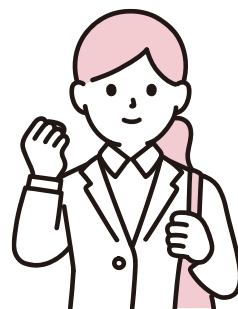
- 第二クールに向けて、第一クールの原課訪問の振り返りをした。
- エスコンフィールド北海道に野球観戦に行った。
- 公務員志望の友人と飲みに行った。
- アルバイトをした。（?!）

皆さん思い思いの休日を過ごされたようですね！



官庁訪問を終えて

2週間に渡る官庁訪問を無事に終えた内定者はどんな感想を持ったのでしょうか？実際に感じた内定者たちの声をありのまま、お届けします！



官庁訪問の感想

- **楽しかったです。**たくさん悩んで、色々な人から話を聞いたり相談したりがら、自分と向き合い続けることができるとても貴重な期間だったと思います。
- 様々な職員の方の話を聞いて自分の志望動機をブラッシュアップしていく過程は、刺激的で楽しかったです。面接で上手く自身の思いを言語化することができず苦しさを感ずる場面もありましたが、非常に濃密で最も成長を感じられる2週間でした。
- ほとんど省庁の説明会に参加していなかったため、経産省という組織のあり方や風土などを詳しく感じられた。
- 控え室での交流を通じて、**同期との間で絆が芽生えた。**
- 再チャレンジは受かりにくいという噂を聞いていましたが、**経産省はフラットに見れくれる組織**だということを官庁訪問を通じて身をもって理解しました。
- 全体を通じて経産省の政策・カルチャーに対しての理解がとても深まったと思うと同時に、自分自身を俯瞰的に見つめ直すことができ、**人間としても成長できた**機会だったと思います。

官庁訪問を通じて楽しかった人、苦しかった人、経産省への思いが強くなった人、人間として成長できた人など様々な人がいます。官庁訪問を体験した人にしか分からない経験ができるはずですので、ぜひ挑戦してみてください！

1

2

3

4

特集

経産省の官庁訪問

官庁訪問を経た変化

- 自分が経産省のどこに惹かれているのかということについて理解が深まった。
- 根幹にある考え方が他省庁とどのように違うのかが理解できたため、時とともに変わる政策への興味ではなく、組織の**普遍的な在り方やミッションを基準**に就職先を選ぼうと考えるようになった。
- クールが進むにつれて、社会が抱える課題に対してただ危機意識を持つだけではなくて、自身が経産省の一員として**どういう手を打つべきかをより意識する**ようになりました。
- 職員方の話を聞けば聞くほど、どの分野も面白いな・携わってみたいなという思いが芽生え、その意味で**いろんなキャリアを経験**してみたいなという気持ちが生まれました。
- 近い将来だけでなく、中長期でどんな働き方をして、**どのような価値を発揮できる人間になりたいのか**、という点について気づくことができた。
- **経産省の幅広い政策が相互に関連**していることや、シビアに現場と向き合うことの難しさに関して理解を深めることができた。
- 官庁訪問前はどちらかといえば既存の産業構造転換に関わる政策領域に興味があったが、原課訪問を重ねる中でスタートアップ政策やコンテンツ産業政策などの**日本の強みを生み出す政策**にも興味が広がった。

官庁訪問では、原課訪問・人事面接を通じて様々な方とお話しする機会があります。官庁訪問では、事前の調査学習では気づけなかった事を学び、経産省の政策の進め方・考え方について改めて知ることができます。アナタが将来経産省で働く姿を想像しながら官庁訪問を進めることができれば、きっといい結果が待っていることでしょう！

経産省の官庁訪問

内定者座談会



参加者

採用区分	学部	趣味	訪問順
Mさん： 事務系	政治経済学部	旅行とライブ	経産省・環境省・国交省
Oさん： 技術系	工学部	野球観戦とバー巡り	外務省・経産省
Hさん： 事務系	政治経済学部	映画と資格勉強	経産省・金融庁

それぞれの省庁の志望動機を教えてください。

Mさん： 3省とも一貫して幅広いフィールドを持っており、事業に対して直接的なインパクトを与えられることを魅力に感じていました。また民間就活を通して防災やエネルギー分野に取り組みたいと思っており、それらができるのはこの3省だなと思って志望しました！

Oさん： 外務省は、防衛力、防衛産業などのハードパワーではなく、経済や人的交流、日本のナラティブを国際社会に対して伝えていくというソフトパワーから、平和を守っていきたいと思って志望していました。経済産業省は頑張る人を取り残さずに日本を成長させたいという思いで志望していました。

Hさん： 経産省も金融庁も、経済力の向上を目指すことができ、ビジネスサイドとの距離が近いところが魅力でした。経産省では国富の拡大がミッションに据えられている一方で、金融庁では国富の拡大が波及効果の一つであるという理解をしたので、経産省を1日目に選びました。金融庁は、金融の安定性を守る機能に対する漠然とした憧れや興味があったので、2日目に訪問しました。

原課訪問で印象に残ったことを教えてください。

Mさん： 色々なタイプの方とお話できたことです。軽い自己紹介や趣味の話になった方、淡々と政策についてお話をお伺いした後に逆質問をした方、熱く自身の政策の魅力について語ってくださった方、政策について自分の意見はどう思うかと議論した方など、様々な方がいらっしゃって十人十色でした。

Oさん： めちゃめちゃ熱い方、人を引き込む魅力を持っている方が多かったことが本当に印象に残っています。特定の分野でいえば、イノベーションの話がすごく刺さりました。他の省庁ではあまり見られないようなスピード感で仕事を進めていくというところや、自分たちが民間企業の先陣を切るということを意識されてる方が多いところに驚きました。

Hさん： 元々経産省は他省庁に比べて攻めた政策をする印象があったのですが、第1クールで電力安全課の方のお話を伺った際に、経産省においても安全を守る現場があることを知ることができたので印象的でした。また、第2クールで訪問した資源エネルギー庁の方との面談は、特に双方向型の面談で、能動的にならざるを得ず刺激的な時間になったことを覚えています。

経産省の官庁訪問

最終的に経済産業省に決めた経緯を教えてください。

Mさん：組織の雰囲気だと感じています。官庁訪問中には、他の省庁と迷って友人にたくさん相談しました。自分自身が今後どちらで働いて、今後どのようなキャリアを歩みたいか、そして、どちらの省庁が自分の性格と合っているのか、それを考え抜いた上で、ミッションやビジョンにより共感できるのは経済産業省だと感じ、決断しました。具体的には自分は海外経験が全くなく、海外志向が非常に強かったのでまだ見ぬ世界へ挑戦してみたいと思い、決断しました。

Oさん：自分のこれまでの色々な就職活動で様々な話を伺い、振り返ったときに最も心にずしんと来たのが、経済産業省でした。本気で日本を変えようという気概を強く感じ、自分の仕事をこんなにも楽しそうに、熱意を持って語っているところに惹かれました。経済という、日本の武器になるものを伸ばしていけるというところで可能性を感じたので、経済産業省に決めました。

Hさん：最終的には、ミッションに共感できたことが決め手です。経済力の向上は、日本の国際的な発言力を守る強力なカードであり、世の中に新たな価値を生み出す夢のある政策目標だと感じていたので、経済産業省で働きたいと思いました。また、エネルギーで熱い方が一定数いらっしゃる雰囲気も、他省庁と比べて自分に合っていると感じたのも決め手の一つです。

最後におまけとして、待機室での思い出を教えてください。

Mさん：1つ目は、職員さんが気さくに話しかけてくれたり、こちらから話しかけた際もたくさん答えてくださり、経済産業省の働き方やキャリアについて沢山学ぶことができました。2つ目は、たくさんの仲間たちとの仲が深まったことです。私が他省庁と迷った時、同じ悩みを持つ友人と何度も情報交換を行い、相談を重ねて「どちらにもいいところがあるよね」と悩んでいました。彼は別の省庁に行きましたが、今でも交流があります。他にも、空き時間で情報交換や趣味の話など多くの訪問者や職員の方と話しました。そこで繋がれた縁も自分にとって大切だと感じています。

Oさん：待機室の係をしていていた職員さんがフレンドリーな方で、私が色々お願いした際も可能な限り叶えてくださり、非常に助かりました。私は経済産業省を二日目に訪問していたこともあり、第三クールで初めて、経済産業省のイベントで以前会った方たちと再会することができました。周囲の方から話を聞く中で、各々が「日本の経済のために働きたい」「日本を良くしたい」という思いで集まっているということを強く感じました。

Hさん：アメニティーがすごくしっかりしているところが素晴らしかったです！！飲み物やお菓子がたくさん置いてあり、待機室内はグループで話せる場所と一人で作業ができる場所に分けられていましたし、装飾も豪華で素敵でした。官庁訪問は、霞が関に幽閉されるような暗い印象を持っていたのですが、思っていたよりも明るく楽しい空間で周りの学生とも気楽に話すことができ、あまり緊張しませんでした。また、控室の職員さんは本当に優しく、面接対策の壁打ちから雑談までなんでも話すことができ、すごくありがたかったです。

皆さん、ありがとうございました！



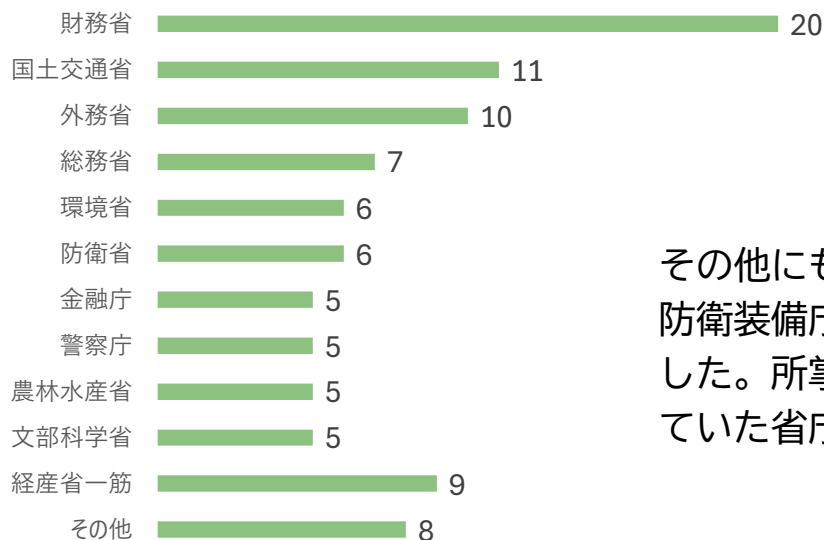
3

内定者の
就活

内定者の就活

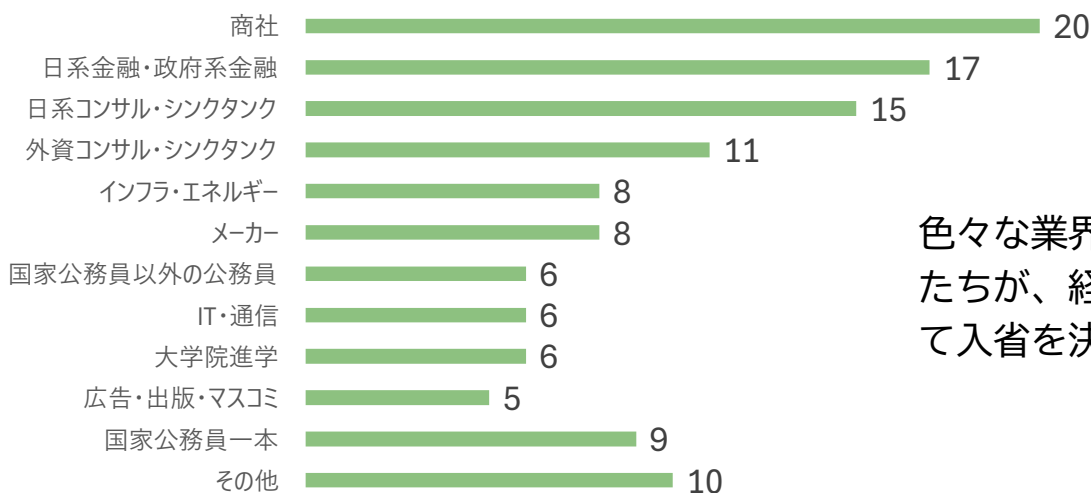
内定者の併願データ

内定者の省庁併願先



その他にも、内閣府、厚労省、国税庁、防衛装備庁、公取委、林野庁がありました。所掌の広さから、内定者が迷っていた省庁も様々です。

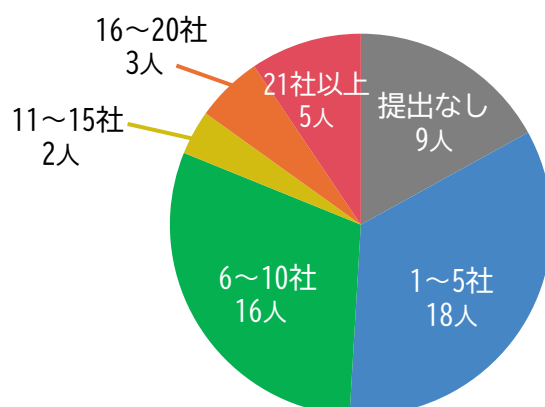
内定者の民間併願先



色々な業界を志望していた人たちが、経産省に魅力を感じて入省を決めています。

内定者のES提出状況

民間就活への力の入れ方は様々ですが、ほとんどの人が1社以上はエントリーシートを提出しています。



内定者の就活

ここと迷ってMETIにしました

・・・ 民間企業編 ・・・

民間企業就活を経験した内定者の、その業界を志望していた理由と、その上で経産省に決めた理由を聞いてみました！

商社

少子高齢化による縮小圧力が強まる日本でも、持続的な価値を生み出したいと考えた。そのためには具体と抽象を行き来しながら結節点に立ち、ビジネスの力で価値を持続化することが不可欠。こうした思いから、総合商社やベンチャー企業などを志望。

民間企業との違いとして、各企業の個別最適ではなく全体最適を目指す中で、多様な選択肢を取り得る点を知った。また、当初は中途入省を考えていたが、成長速度や仕事に必要なつながりの形成など、面白い仕事を実現する上で新卒入省に大きなメリットがあると教わった。

こうして、経産省と自分自身の目的・手段との一致を実感するとともに、チャレンジ精神や本質へのこだわり、個の力の最大化、多様性を活かした組織力の最大化といった価値観にも強く共感し、経産省へ。

外資系コンサル

業界横断的な協業によって、社会課題の解決を主導していきたい。更に、私の性格上幅広い分野・案件に携わっていきたい。この、2つの軸を両立させることができるのが、外資コンサルだった。

社会課題の解決に自分の手で取り組むことができ、更にジョブローテーションで様々な景色を見ることが出来る国家公務員に魅力を感じた。中でも、実際に民間企業と近い距離で関わって協業の手助けをしていけること、そして国際的なルール整備など国内に留まらないアプローチ手段が取れることなどから、経産省を志望した。

説明会や職員の方との対話を通して、自分が取り組んでいきたい、日本のスタンダードを世界に広げる標準化施策が具体的に見えたことが決め手。

1

2

3

4

特集

内定者の就活

日系金融

現状の課題に対して、お金の面からアプローチしようと考えた。例えば、再エネを持続可能な形で推進するために、プロジェクトファイナンス等金融面で関わりたいと思った。

エネルギー分野に限らず、**ルールメイクは必要で、業界横断で関わる**ことが大事だと考えるようになった。**様々なツールを用い、あらゆる主体とコミュニケーションをとれる**経産省が、自分のやりたいことを一番叶えられると考えた。

政府系金融

経済学部でありゼミで金融を学んでいたことに加え、自身のキャリア軸として公共部門への貢献があった。政府系金融は動かすことのできる資金も多く、やりがいが大きそうだと感じた。

改めて自分のやりたいことを考え、より広い分野での公共性を追求しようと思った。お話を伺う中で、政府系金融は省庁の政策ツールの一部であると感じ、**より大きな視点**で物事を見たいと思うようになった。

日系コンサル

日本経済の国際的プレゼンスの向上には、企業の行動変容に「民間」の立場から直接アプローチするコンサルティングという方法も重要だと考えた。

国内外の情勢を踏まえて、政策を考え、実行するという業務内容にやりがいを感じた。他国との交渉やルールメイキングを通して、企業や経済活動により大きな影響力を与えられる点に魅力を感じた。



内定者の就活

メーカー

航空機用エンジンに関わりたいと思い重工業メーカーを志望。実際に日本経済の根底を生み出しているのはものづくりを行うメーカーであり、メーカーでも日本経済を支えたいという思いを持って働くことはできると考えていた。民間就活を通じて企業が経済において果たす役割を再認識することができた。

春試験の一次合格者対象説明会の中で政策の立案や実行に携わりたいと感じた。真に国益を追求することができるのは企業ではなく国家公務員だと思った。イベントに参加する中で経産省の人たちと一緒に働きたいと思うようになった。

インフラ

幼少期から航空機が好きで、研究内容も航空機に関連するテーマであったため、ずっと航空業界を志望していた。3月にエアラインの会社から内々定を頂いた時は、就活を終わらせようかと真剣に考えた。

4月の理系カフェトークでお会いした職員の方から、「幼少期から車が好きでトヨタに勤めたが、自身の人生でやり遂げたいことを考えた時にトヨタではなく経産省であると感じてトヨタを辞め、経産省に来た」というお話を伺った。自身の人生を考え直したところ、「公共性が高い仕事に従事して、社会の現実を自分ごととして捉えられる人」になりたい思いが強いことを認識し、経産省の官庁訪問に行くことを決めた。

是非、皆さんも様々な企業、業界を見る中で、自身の重視する価値観は何なのか、実現したいことに最適なのは民間企業なのか、省庁なのか考え抜いてみて下さい！！



内定者の就活

省庁編

経産省の内定者が、官庁訪問までに関心を持った他省庁の迷った理由と、最終的な決断理由をいくつか紹介します！

財務省

1人目

両省を志望したのは、広い視野を持ってこの国全体を捉え、天下国家を語ることができ、国家の最重要課題の一端に取り組むことができる場所だと考えたため。

自分がワクワクする方に行こうと思い決断した。官庁訪問などを通じて感じたワクワクするという要素を言語化すると、現場を持ちながら大きな絵を描くことの面白さ、経済の発展に向けたアクセラレーターとエネルギーという巨大な制度の所管という役割の二面性、自分のストーリーで勝負できるということ、経済成長の旗印を掲げる魅力などが挙げられる。

2人目

①セクショナリズムに捉われず、政治全体を俯瞰できること ②自由な価値観が是認されることの2点を重視。「予算」という武器を通し国政全体に関われる財務省か、「経済」という切り口の幅広さを感じる経産省かで悩んでいた。

「経済」という切り口が十二分に幅広く、分野横断的な思考が可能である事を確信できた。また、創造的/保守的アプローチの双方が認められるような空気感を知り、その思考の自由さが自分に合っていると感じた。

3人目

経済という汎用性の高いアプローチを用いて日本社会の広範な領域に対して横断的に取り組めること、及び国際経済における日本のプレゼンス向上に貢献できることを重視していた。

俯瞰的な視点から最終決定を下す財務省に対して、実際に日本社会を支えている現場に寄り添った仕事ができる経産省の方が、自分が実現したい社会の姿を追求できると思った。また、財政規律という既定の秩序を維持するために着実な仕事をこなす財務省に対して、未来志向でゼロから議論する経産省の方が自分に合っていると思った。

1

2

3

4

特集

内定者の就活

国土交通省

日本の生活基盤を維持・発展させ、「日本に生まれてよかった」と思える社会を作りたいというのが大きな軸としてあった。

その上で、あらゆるものの前提となる経済基盤にアプローチできるのに加えて、閉塞感を打破して社会の流れを未来志向に変えることができるという点に惹かれた経産省と、日々の生活基盤に対して、物理的なアプローチが可能であるのに加えて、持続可能な未来に向けて、技術や制度など多方面からの挑戦ができる点に惹かれた国交省で迷っていた。

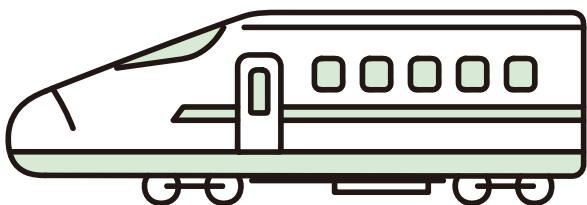
楽しい瞬間を考えた時に、経産省は“**経産省の職員の方と議論している時が楽しい**”だったので、どんな業務でも楽しんで乗り越えられると思った。また、官庁訪問でお会いした方がロールモデルになる方であり、具体的にどんな点が評価されているのかを言語化してくれて自分の強みをどう活かせばいいのかが想像できた点から経産省に決めた。

職員の視座の高さや情熱、世界規模の仕事に対して感じたワクワクが非常に大きかった。経産省の環境でやっていけるか不安だったが、メンターや同期の後押しもあって、ワクワクする環境に飛び込むことを決めた。

外務省

大学で国際関係論を専攻していたこともあり、グローバルな視点をもってできる仕事に興味を持っていた。その中で、国家間の対立が深まる今日において国際社会の平和と安定を実現し、日本が国際社会から享受する利益を拡大できる仕事に携わりたいと思い外務省も志望。

国際社会の中での日本という視点に立った際においても、**経済・産業という具体的な政策分野を持つことで適切に日本の国益を反映**ことができると考え経産省へ。また、官庁訪問を通じて、職員の方々の業務に対する熱い想いや生き活きとした姿を見て、**経産省は「個」を大切に**する場所であると実感したことも決め手になった。



内定者の就活

総務省自治

地方出身で、これまで大きな課題だと感じていた地方創生に深く携われると感じた。中央と地方を行き来するキャリアにも魅力を感じていた。

総務省では国内政策に深く携われるが、国際的な視点はあまり持っていないと感じた。また、地方創生等の日本社会の課題解決のためには、やはり国際的な視野も持ち、根本的なパイを経済政策によって増やしていくことが最も重要だと感じたから。

総務省ICT

生成AI・情報空間・安全保障など、大きなテーマを扱えて、かつ、メディア・プラットフォーマー・情報通信デバイス・電波などの強力な政策ツールを幅広く有することに魅力を感じた。究極的には日本を良くしたいという思いから、早い段階で国家公務員への志望を固めた。その中で日本の課題の要として取り組みたいテーマを経産省での国富の拡大と総務省ICTでの情報空間・インフラの維持、発展の2つに絞り、迷っていた。

経済立国たる日本の課題の根源を突き詰めていった結果、行政官として自分の価値を打ち出せるのは、時代の変動にいち早くキャッチアップし、マクロからミクロまで多角的に政策を展開する経産省だと感じ、入省を決意した。

防衛省

日本の経済の発展や不安定な国際情勢に対応するためには、国の安全が第一だと考え、防衛産業の活性化をやりたいと思っていた。また、防衛省のイベント等に参加して、職員の雰囲気良かったことも志望の理由であった。

4月にカフェトークに参加した時に、理系であることを活かせそうだと感じると同時に、様々なことに興味を持ちやすい自分にとっては、防衛産業以外でも関われる範囲が広いことが合っていると思って、経産省を第一志望にした。官庁訪問を経て、他の学生が原課で聞いた話も含めて、改めて所掌の広さを実感し、常に興味を持って頑張れそうだと感じた。

その上で常に、省全体として「やってみよう」という気概があるところにマッチすると考え、様々な企業や専門家と関わって仕事する業務のスタイルも合っていると感じた。

1

2

3

4

特集

内定者の就活

文部科学省

日本には、優秀な人材や卓越した技術がまだまだ眠っているが、うまく生かし切れておらず勿体ないと考え、大学も産業界も巻き込んでうまく回るようなシステムを作っていきたいという思いがあった。科学技術・イノベーション政策は、文科省で教育や基礎研究からアプローチするか、経産省で産業側からアプローチするかといった点で悩んでいた。また、文科省は博士人材の採用にかなり積極的だという話もあり、迷っていた。

前例にとらわれない新しいことに挑戦できる環境にあると感じたためMETIへ。官庁訪問で話した若手の職員さんが、自分の担当業務はもちろん、それ以外のことについても熱く語っていた姿や議論する姿勢を見て、素直にワクワクした。自分の大学院での経験が今すぐドンピシャにはまるのは文科省かもしれないが、将来の自分がより成長している姿を想像できるのは経産省だと思った。

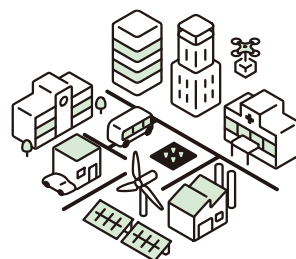
イノベーションのためには人材および投資のバランスを俯瞰して時にダイナミックな政策を打っていく必要があると官庁訪問で痛感した。

環境省

もともと生き物や自然が好きで、国立公園などに関われる環境省の仕事に興味を持ったことをきっかけに国家公務員を志した。環境行政の中心として「人と環境を守る」ことを第一に考える環境省で、地方勤務や留学等を経ながら実務経験を積んでいきたいと考えた。

環境問題について考えていくうちに、自然環境を見ているだけでは不十分で、経済や国際関係に目を向ける必要性を感じるようになった。

官庁訪問では、原課訪問や人事面接で自分自身の考えを求められる経産省が一番楽しかった。ずっと第一志望だった環境省とギリギリまで悩んだが、①環境以外にも様々な課題に取り組むことができ、将来の可能性が大きいと感じたこと、②環境問題などの課題を突き詰めた本質には経済があり、その本質に挑みたいと考えたこと、以上2点から経産省に決めた。また、他省庁への訪問も経て、経産省の一員として産業界をはじめとする多様なステークホルダーを巻き込むことを通して環境問題を解決していきたいと強く思った。



内定者の就活

金融庁

1人目

様々な変革が求められ、日本の風景が時代に合わせて変化しなければならない現代に、国民の意識や日本の雰囲気を変える、あるべき日本の理想の未来を想像し、創造する事ができる組織に属したいと考えていた。激動の日本の最前線に立ち、国益に一番適う状態を考え、実行できる存在でありたかった。

経産省では、「国富」という人によって捉え方の変わる曖昧なものを相手にした上で、**本当の意味で日本が豊かになるにはどうすればいいのか**という次元から政策を考えることのできる点や、官庁訪問中も「なぜそう思うのか」「どうしてそう考えるのか」と**常に私自身に問いをぶつけ続けてくれるような組織風土**に惹かれた。

2人目

共通軸として、ビジネスサイドとの距離が近い且つ経済力の向上を目指せるという点に魅力を感じていた。

「**国富の拡大**」を**組織のミッション**とする経産省により共感することができた。また、**エネルギッシュな職員が一定数いる雰囲気**が自分に合っていると感じた。

3人目

人口減少下の社会における経済の攻めと守りの両面に関われるところに魅力を感じた。

よりマクロに日本社会全体を概観した上で、**日本の最重要課題に能動的に関わっていきたい**と思った。**ツールベースではなく課題ベース**で社会問題に関わりたいと考えた。

農林水産省

昔からコメが大好きで、農業をいつかやりたいと思っていたという背景から、農業政策に興味があり、農水省も見ていた。

2024年9月のサマースクールに参加したときに、**経産省が持つ未来に誇れる日本にするために取り組む姿勢**に非常に共感した。新しいもの好きで面白いアイデアを歓迎していた点と、**できることではなく「したい」を語れる点**が良かった。他の参加者の雰囲気も、新しいもの好きで、**面白いアイデアを歓迎**するのが自身にあった。

また、産業政策も通商もエネルギーも経産省の所掌範囲の全てに興味があり、どの部署に行っても頑張れると思った。

イベントや官庁訪問を通して、ミッションや文化を感じて下さい！

内定者の就活

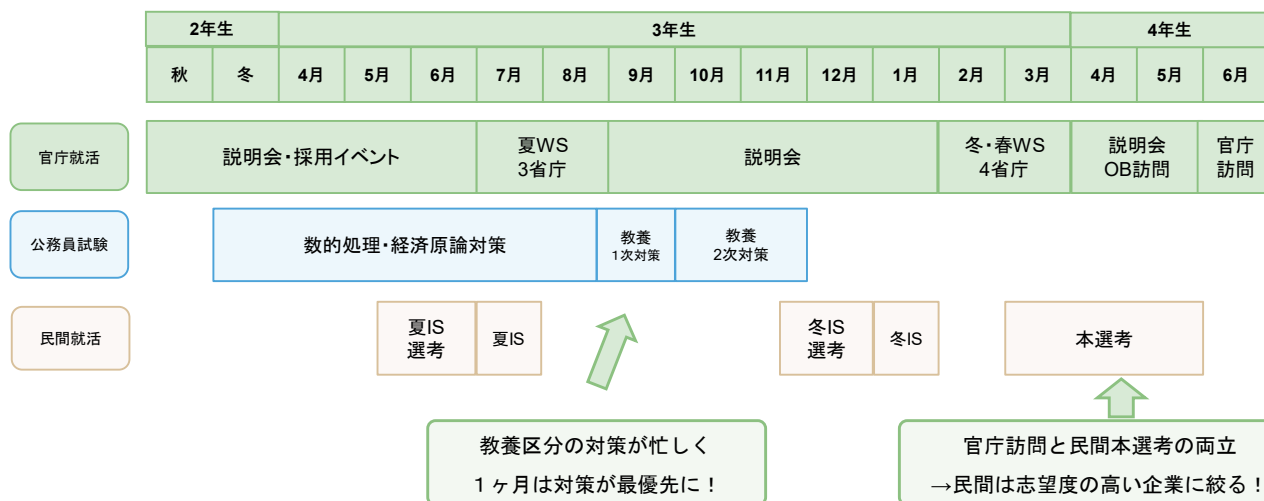
内定者の就活スケジュール

内定者の就活スケジュールのモデルを紹介します！

・・・

事務系

・・・

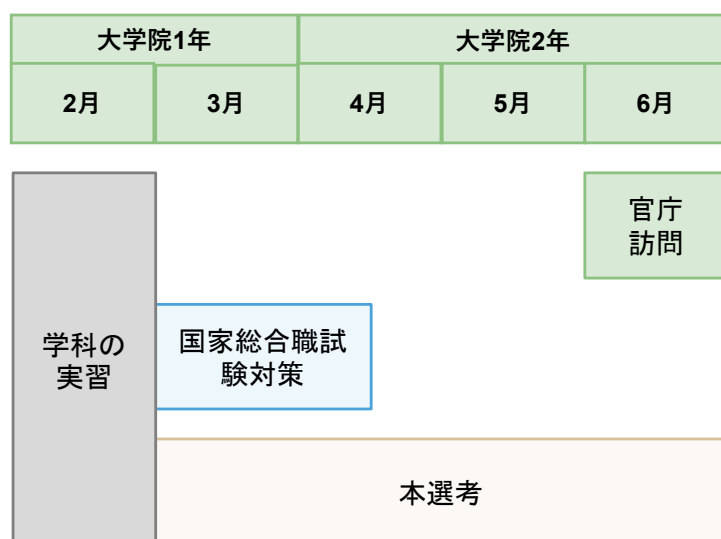


官庁訪問対策、公務員試験対策は、早い時期からコツコツやっていました！冬の期間は部活動が忙しく、2月まではwinter school以外の就活はオンラインにして、部活がメインでした。バイトは、週1～2程度で、就活優先でスケジュールを組みました！

・・・

技術系

・・・



休むことができない学科の実習が2月まであり、就活や国家総合職試験対策は3月からでした。ESの提出が遅かったため、民間就活と官庁訪問が被って大変でした。また、説明会等に参加できないままの官庁訪問でしたが、自分の将来について、考えがまとまる良い機会でした。

1

2

3

4

特集

内定者の就活

内定者のおすすめイベント

経産省の内定者が、魅力的な採用イベントの中でも、特におすすめなものの一部コメントと共に紹介します！！

Summer School

政策立案を体験し、経済産業政策の実態や政策立案プロセスへの理解を深められます！

〈内定者の声〉

- ・政策立案を疑似体験し、フィードバックから思考の仕方も伺い知れる。
- ・多くの職員と話す機会があって、価値観を知れる。
- ・5日間と長いですが、終わってみるとあっという間で充実していた。
- ・他の参加者と仲良くなれた。

Winter School

2日間にわたって政策立案を体験し、経済産業政策の実態や政策立案プロセスへの理解を深められます！夏より濃く考え抜きます！

〈内定者の声〉

- ・説明会に参加した上での政策立案体験のため、議論の内容のレベルが上がる。
- ・夏ほど長期ではないので、理系院生など忙しい状況でも比較的参加しやすい。

METI Policy Seminar

各政策分野の第一線で活躍する講師が、経済産業省の政策や仕事への想いを語ります！

〈内定者の声〉

- ・自分が関心を持っている政策について、経産省が「何をしているのか」を詳しく知れた。
- ・職員の方々が、日々どんなことを考えて働いているのかが掴めた。
- ・官庁訪問対策のインプットになった。

どのイベントも色々な発見があります！
ぜひ積極的に参加してみてください！！

他にも魅力的なイベントが盛りだくさん！
詳しくは経産省採用ホームページをチェック！→

<https://www.meti.go.jp/information/recruit/event/index.html>



内定者の就活

内定者座談会

参加者

採用区分	学歴	趣味
Oさん： 技術系	理系院生	フィルムカメラと餃子
Wさん： 事務系	理系学部生	美術館と読書
Yさん： 事務系	文系学部生	カラオケとグミ収集

国家公務員に関心を持った時期ときっかけを教えてください。

Oさん：就職活動の中で、試しに参加した経産省のインターンシップがとても面白かったことが、最初のきっかけです。民間企業の利益追求に違和感を感じていた中で、もっと国や社会のために働けるのは経産省かもしれないと思いました。もう一つは、私が水素・アンモニア系の研究をしているのですが、その分野の情報の出典に経産省が関わっていることが多かったことでした。

Wさん：ちょうど日程が合ったことや、自分が関心を持っていたバイオ系やヘルスケア分野に関わる仕事があると知って、軽い気持ちで参加したインターンシップが最初のきっかけでした。私は、医薬品開発に携わるために薬学部に進学しましたが、実際に勉強する中で、個々の技術や製品を超えて、それを支える社会システムや仕組みの方がより大きなインパクトを与えられるのでは、と考えるようになりました。医療・バイオ系の分野に関わることのできる、総合商社や銀行を受けるのと同時に、社会システムを描くという役割にも興味を持ち、公務員を志しました。

Yさん：自分の力を最大限活かし、社会に大きなインパクトを与える仕事がしたいと思った時に、国家公務員がいちばんやりがいがありそうだと、高校時代から漠然と考えていました。地方出身の私は、人口減少や地域経済の衰退を自分事として捉えていました。大学進学後、地方に入るプログラムに参加し、この課題が日本全国で普遍的なものだ考えるようになりました。その課題に正面からアプローチできるのは、特定の利益にとらわれない国家公務員しかない、と決意しました。

民間企業で関心があった業界とその理由を教えてください。

Oさん：民間企業では、重工系のメーカーと総合商社に関心がありました。水素・アンモニア分野に技術面から取り組んでいるのが、重工系の企業で、それをプロジェクトや事業として取り組んでいるのが、総合商社だと思っていたので、興味を持っていました。

Wさん：私は医療やバイオ分野のビジネスに携わりたいと思っていて、日系投資銀行、総合商社、メガバンクの3つに関心がありました。その中で一番惹かれていたのは日系投資銀行やメガバンクです。理由は、財務やファイナンスのスキルを身につけられる環境が整っているからです。総合商社も受けましたが、こちらは経営スキル全般を広く学べる点に魅力を感じていました。最終的には国家公務員を志望しましたが、仮に民間に進むのであれば、将来的に起業したいという思いがあり、そのためのファーストキャリアとしてファイナンススキルを鍛えられる業界を選んでいました。

Yさん：国家公務員が第一志望だったので、民間企業はあまり見ていませんでした。周りがみんなコンサルを受けていたので、とりあえず説明会に参加したり、ベンチャー企業のインターンシップに行ってみたりしました。それはそれで面白かったのですが、やはり自分は民間ではないかもしれない、と思うきっかけにもなりました。ただ、官庁と近い立場で社会課題の解決に取り組む独立行政法人には少し心を惹かれました。現場に近い分、仕事に手触り感があると感じたからです。

内定者の就活

民間企業への就職活動と公務員試験、官庁訪問の両立はどうでしたか。

Oさん：正直、全体的には少し大変だったという印象があります。ただ、民間企業の本選考は、年明けの1月ぐらいから3月までで短期間で終わらせて、その直後から試験や官庁訪問対策に切り替えることが出来たのは良かったですと思います。それこそ、前年度受験とかもできたので、もうすこし前から準備しておけばよかったなという後悔はあります。

Wさん：自分の場合は、国家公務員になりたいという想いは、大学2年生の時からあり、大学院への推薦は断ろうと思っていたので、保険の意味も込めて民間就活も並行していました。4月までは生活の中心を民間就活に置きつつ、それ以降は完全に官庁訪問に切り替える、という形で進めていました。民間就活については、本当に興味のある業界や企業に絞って受けていました。移動時間にESを書いたり、受ける数を減らしたり、時間を有意義に使うと意識していました。公務員試験の準備は早めに始めていて、2年生のうちに試験を受けました。また、10月頃から面談で志望動機について相談していました。そのため、官庁訪問の直前になって慌てることは少なく、全体としては両立できたと思います。ただ、学業や課外活動、アルバイトとの両立が大変で、そちらの方にしわ寄せが来た感覚はありましたね。

Yさん：大変でした。特に民間企業のインターンシップだと、ESを出してWebテストを解いて、面接して…というプロセスを何回も踏まなければならない、時間も体力も使いました。そのような状況下で官庁の説明会に行ったり、特殊な形式の公務員試験の演習をしたりしていると、どうしても生活に無理が出ていました。当時はだいぶ睡眠時間が削られていました。私はある程度進路を固めていたので、民間就活をやるにしても、もう少し業界を絞るべきだったなというのが反省点です。官庁訪問の時期には、ほぼ民間就活をやめていて、官庁訪問に全集中していました。

民間企業の就職活動を経験して良かった点がありますか？

Oさん：まず就職活動という意味では、面接や、自分の考えを言語化する練習が十分にできました。もう一つが、重工業系の企業で話を伺う中で、水素・アンモニア関連で、経産省の名前が出ることや、民間側から見た国との関係性について学ぶ機会が多かったことです。民間側が抱える難しさを聞くことができて、そこで働かないにしろ、エネルギーを取り巻く全体像や、国と民間の立場を意識しやすくなったと思いました。

Wさん：一つ目は、政策を現実に落とし込む視点を持てたことです。行政がどれだけビジョンを描いても、それを実際に動かすのは民間企業です。就活を通じて、民間の方々の仕事への誇りや、会社を動かすための感覚に触れることで、「政策を考えるだけでなく、現場でどう実現されるか」を意識できるようになりました。二つ目は、自己分析や面接の練習になったことです。自分の経験や強みを深掘りして言語化したことが官庁訪問の面接でも活きました。民間就活を経験したからこそ、頭でっかちにならず、現場感覚を忘れないようにしようと思えたと思います。

Yさん：世界は誰かの仕事でできているということを実感しました。どの分野の方もプロ意識や使命を持って働いていて、社会をよくしようとしていると肌感覚で学べました。ただ、面接対策になったかと言われたら、私は少し疑問です。民間と官庁は面接を含めて採用プロセスが全く異なるし、動機の作り方も違います。ガクチカをブラッシュアップする場にはなったかもしれませんが、それは友達同士でやったほうがコスパもタイプもいいと感じました。

皆さん、ありがとうございました！



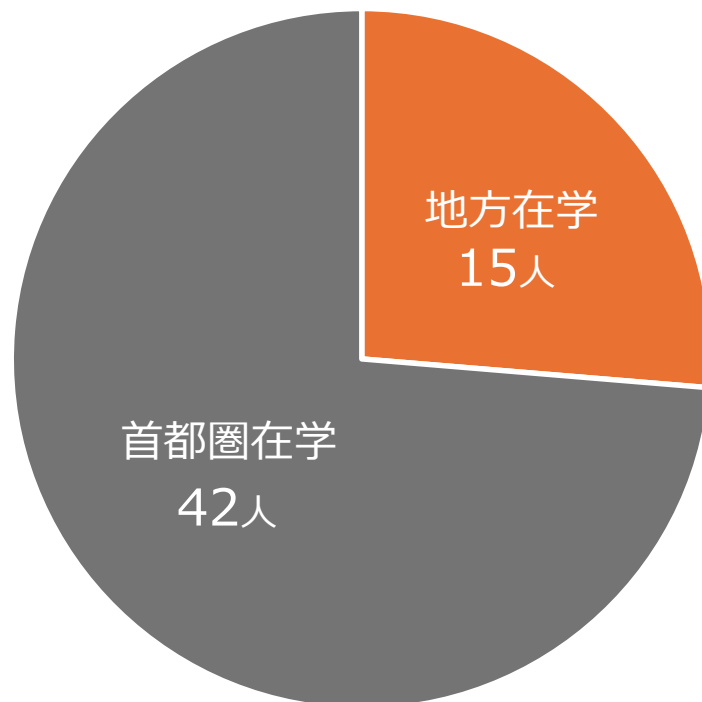
4

地方在学者の
就活

地方在学者の就活

地方在学者の割合

今年の内定者のうち、およそ**4人に1人**が地方の大学に在学しています。下の図を見て「首都圏在学の方が有利なのでは？」と思うかもしれません。



しかし、経産省の評価に全く関係なく、多くの地方在学者が内定を受け取っています！「**地方在学だから…**」と萎縮する必要は**全くありません！**

地方に在学していると、地理的な部分で不利になってしまうことは否定できません。今年の内定者がどのような工夫をしていたのかを紹介していきます！

1

2

3

4

特集

地方在学者の出費

地方在学者にとっては、官庁訪問での出費は非常に気になる場所だと思います。実際にはどれくらいの金額がかかったのか、出費の内訳について調べてみました！

実際にかかった金額は？

出身	宿泊費	生活費	手段	交通費	総額
北海道	15～20万円	3～5万円	飛行機	1～5万円	20～30万円
	15～20万円	1～3万円	飛行機	1～5万円	15～20万円
	実家	1万円未満	飛行機	1～5万円	1～3万円
	親族宅	1～3万円	飛行機	1～5万円	3～5万円
東北	10～15万円	1～3万円	新幹線	1～5万円	15～20万円
	3～5万円	1～3万円	新幹線	1～5万円	5～10万円
北陸	5～10万円	1～3万円	新幹線	1～5万円	10～20万円
中部	15～20万円	5～10万円	新幹線	1～5万円	20～30万円
関西	親族宅	3～5万円	新幹線	1～5万円	5～10万円
	実家	1万円未満	新幹線	1～5万円	1～3万円
	友人宅	3～5万円	新幹線	1～5万円	5～10万円
	15～20万円	3～5万円	飛行機	1～5万円	20～30万円
	15～20万円	3～5万円	新幹線	0.5～1万円	20～30万円
	5～10万円	1～3万円	新幹線	1～5万円	10～15万円
	5～10万円	3～5万円	新幹線	1～5万円	10～15万円

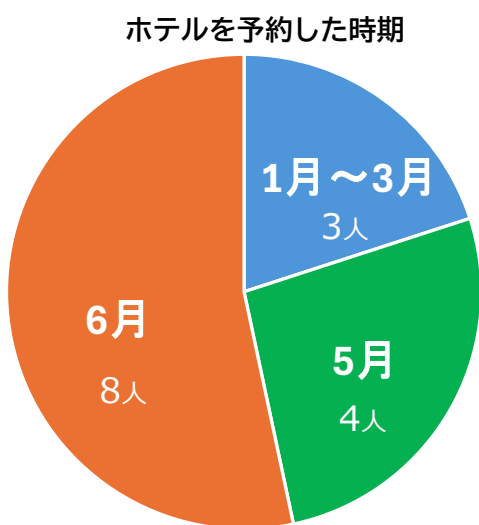
滞在日数などにもよりますが、官庁訪問は宿泊費だけで10万円以上の出費となるイベントのようです。。ただ官庁訪問はプロセス全体でも1日で見ても非常に長丁場ですので、**多くの人が費用よりも過ごしやすさを重視**していました。その中でも費用を抑えるべく、ホテルや交通費の使い方を工夫している人も見られました。

宿泊先に関しては、人事院からオリンピックセンターへの宿泊案内も出ているので、そちらの利用を考えてみるのもいいかもしれません！

地方在学者の就活

・・・ ホテルについて ・・・

官庁訪問期間は多くの人に関東圏、特に霞が関へアクセスの良いところにホテルを取るため、ホテルが取りにくいとよく言われます。今年の内定者はいつ頃から準備を始めたのでしょうか。



グラフを見ると、**一定数の内定者は年度初めにホテルを予約している**ことがわかります。6月に入ってから取る人も多いようですが、「沿線から宿泊先が遠くて苦労した」という声も聞きました。万全を期して、ホテルは早めに確保の方がよさそうですね。

内定者の声

①ホテルのあれこれ

- いつもの対面イベントよりもいいホテルに泊まりました。
- 土日は友達の家泊まって節約した。
- ホテルは訪問日だけ取って、それ以外は知人宅を頼っていました。
- 丸の内線や千代田線沿線かつ乗り換えなしで霞ヶ関に行ける場所を選んでホテルを取りました。
- 公務員試験や説明会で泊まる機会があればその時に探しておくといいです！

②休日の過ごし方

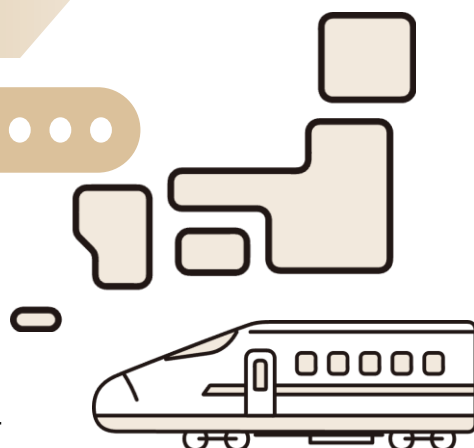
- 東京在住の友人と会ってリフレッシュ！平日のことは忘れていました。
- 官庁で既に働いている知人・友人の家に泊まり、官庁訪問での悩みを解決していました。
- 日比谷公園内の図書館は省庁の白書が充実しているので、毎週末散歩がてら寄り道していました。

地方在学者の就活

内定者座談会

参加者

	採用区分	居住地域	趣味
Mさん：	事務系	東北	ヨガとパン作り
Yさん：	事務系	関西	温泉と昼寝
Tさん：	事務系	関西	大相撲観戦とディズニー



1

2

経済産業省のイベントには、どれくらい参加しましたか？

Mさん：基本的にはオンラインで参加していましたが、サマースクールやウィンタースクールなど、グループワークを含むイベントは対面の方が得られるものが多いと思っていたので、対面で参加するようにしていました。

Yさん：基本的にはオンラインで、10回程度参加しました。政策についての説明会は後日配信されるものもあったのでほぼ全て視聴できました。僕もサマースクールとウィンタースクールは両方とも対面で参加しました。それ以外には、官庁訪問直前に開催された採用担当の最終講演は、対面参加が推奨されていたのに加えて、他にどのような志望者たちが官庁訪問に臨むのかが知りたかったので、対面で参加しました。対面イベント参加の際の宿泊先としては、お手頃な宿を予約したり、友達の家に泊まるようにして節約していました。

Tさん：私も10回ほど参加しました。大体はオンライン参加でしたが、サマースクールに加え、採用担当が京都まで来て開催してくださるイベントには対面で参加しました。民間企業の選考の都合で東京に来た際に、予定を調整してイベントに対面参加することもありました。

3

4

官庁訪問期間中はどこに滞在していましたか？

Mさん：訪問期間中はホテルに滞在してたのですが、土日だけ東京の友人の家に泊っていました。これは他の人にとってあまり参考にならないと思いますが（笑）、私が全国チェーンのホテルでアルバイトをしていたことで、少しだけ安く泊れました。ホテルにはマッサージチェアがあったり、夜食にラーメンが食べられたりして、リラックスできたと思います。

Yさん：基本的には友人の家に滞在していて、各訪問日の前日は赤坂のホテルをとるようにしていました。僕の場合は訪問が経産省のみだったので、ホテルに泊まっていたのは4日間だけでした。ホテルに備えられていた大浴場に、朝と夜の2回入ることでリラックスできました。客室のクーラーの位置によっては喉を痛めてしまうことがあり、第4クールでは声がガサガサでした（笑）。

Tさん：官庁訪問の2日前まで大学の用事があったので、前日に東京の実家に着きました。そこから第4クールまで休みの日もずっと東京で過ごしていました。

特集

地方在学者の就活

官庁訪問中の休日の過ごし方を教えてください。

Mさん：友人の家で過ごしていました。その人は省庁で働いているので、第1クールの後で色々迷っていたときには話を聞いてもらいました。他には散歩したり、ギョーザを包んだりもしました。私の場合は友達と話すことが息抜きになるので、同じ大学院から官庁訪問にきている人たちと集まったりもしました。緊張している期間が長かったので、そのような繋がりがあったことは、とても良かったと思います。

Yさん：東京に住んでいる友人に教えてもらったカフェで作業をしていました。官庁訪問で学んだ内容を整理したり、リモートでバイトをしたり、自分の好きな本を読んだりしていました。訪問期間中も大学の授業があったので、その録音を聞いたりもしていました。友人も暇なときは、一緒に目黒のスタバのロースタリーに行ってみたり、ラーメン屋さんを巡ったりしました。

Tさん：地元の友人や学部卒で就職した友人が東京にいたので、一緒に飲みに行きました。他には、東京駅前に私の通っている大学の東京オフィスがあったので、そこのラウンジを利用しました。第3クール前の重要なときには、一緒に官庁訪問に挑んでいる友人と、最後に志望動機のブラッシュアップをしました。

公務員対策の不安を解消するために、何をしていましたか？

Mさん：東大生が中心となって運営している勉強会に入って繋がりを作っていました。勉強だけでなく雑談をする機会もあったので、そこで情報格差に関する不安を解消していました。

Yさん：情報という点で言うと、採用担当の方が京都に来てイベントを開催してくれる機会になるべく参加するようにしてたのに加え、オンラインで質問ができる機会に様々なアドバイスをもらっていました。「自分は今、こういう情報を知っているのですが、他にどのような情報が足りていないですか？」と聞いて、客観的に自分の状況を把握していました。

Tさん：先輩や、既に他の役所で働いている学部卒の同期に官庁訪問に関する情報を聞いたり、面接カードを見てもらったりしました。経産省のことについてはあまり聞けなかったのですが、官庁訪問の全体的な空気感を掴むようにしていました。

地方から国家公務員や経済産業省を目指す方へ一言お願いします。

Mさん：経済産業省は、イベントにオンラインでしか参加できていなくても、公平に評価してくれる省庁だと思います。地方在住を不利だと捉えずに、むしろ地方在住だからこそ、「〇〇地方の〇さん」と覚えてもらおう、と思って、自信を持っていただきたいと思います。

Yさん：地方の実情を知っている人が政策に携わることの意義が昨今ますます大きくなっていると思います。ハードルに直面しながらも、そのハードルを乗り越えたという経験を生かして、将来やりたいことを実現できれば良いと思っています。

Tさん：東京の学生に比べれば、情報の面でのビハインドはあり得るかと思うのですが、パブリックマインドと熱いパッションで押し切ってもらいたいと思います！あとは、お金は計画的にバイトを頑張っておこう、と伝えたいですね。最後にリアルな話でごめんなさい（笑）。

皆さん、ありがとうございました。



5

特集

特集

採用担当者

スペシャルインタビュー

採用活動から経産省のことまで
気になる疑問をぶつけてみました！

採用活動のリアル

総合職試験の区分や席次、説明会の参加回数は重要ですか？

仁平 試験の区分や席次は全く関係ありません。試験の席次が下位でも入省した人はいます。もちろん、席次が良いことがポジティブに評価されることはありますが、悪いからといってマイナス評価になることは決してありません。試験の成績というよりも、自分が何をやりたいのかを官庁訪問中に職員に口述で伝えることができるかどうか、評価の全てになっています。

説明会の参加回数も直接は評価に関係ありません。ただ、「なぜ経産省なのか」「なぜ実現したいのか」「なぜ自分がそれをやりたいのか」といったことは問われます。その答えを考えるうえで、経産省のイベントにどのくらい参加したかは、自分の説明を作る際に影響してくるファクターになるので、イベントに参加してもらうのが良いと思います。

佐藤 全く同じで、僕は化学・生物・薬学区分で入っていますし、さまざまな区分があるなかで、自分の入りやすい区分で



総合職 事務系採用担当

入省12年目

これまでの経験：

原子力（特に核燃料サイクル）、経済安全保障（投資スクリーニング改正）、ゼロゼロ融資制度設計、ブリュッセル駐在、GX（特にカーボンプライシングなど

趣味：

フットボール観戦、旅行、スキー/スノボ

総合職 技術系採用担当

入省10年目

これまでの経験：

大阪・関西万博、福島復興・福島第一原発の廃炉、次世代医療基盤法改正、米国留学（公衆衛生）など

趣味：

愛犬の散歩、野球、マラソン

受けて官庁訪問に来てもらえたらと思います。

採用イベントに事前知識は必要ですか？

佐藤 全く必要ないと思います。自分が知りたいこと、関心があることについてそこで学んでもらって、そこから「さらに知りたいこと」を調べてもらえば十分です。説明会に参加するために特別な準備をする必要はありません。理系の目線で言うと、むしろ、知識のない分野こそ話を聞いてみてほしいと思いますし、それは経産省がいろいろな分野を見ているからこそその良さだと思っています。逆に知識を持っていない分野にこそ、ぜひトライしてみてほしいなと思います。

仁平 説明会やイベントでは、事前にどんな知識を持っているかではなく、参加してみ、「自分がやりたいこと」や「なぜそれをやりたいのか」がどう変化したが大切。だからこそ、事後のフォローアップを大切にもらえたらと思います。その観点からも、自分が全く知らなかった分野の話聞いて、自分のやりたいことや経産省の志望動機を考えてもらうのが一番いいかなと思います。

所属大学や学部、留学経験の有無は採用に関係しますか？

佐藤 関係ありません。理系・文系というバックグラウンドはありますが、それだけではなく、その人がこれまで何を考えてきたか、何を学んできたか、その人自身のパーソナリティをベースに見ています。ですから、このバックグラウンドでなければダメということはありません。経産省では、様々なバックグラウンドが必要なので、技術系と事務系という門戸を設けていますが、その中でこういった多様な人を採用できるかを考えています。

仁平 自分が何をやりたいのか、なぜ経産省でそれをやりたいのか、ロジックを問います。大学名で評価することはありません。

官庁訪問で意識するべきポイント

エントリーシートで学生が気を付けるべきポイント、見ているポイントは？

仁平 作られた言葉よりも、自分が何をしたいのかを自分の言葉で語れるかが大切です。そして、それをこれまでのイベントや官庁訪問とどうリンクさせて、自分のやりたいことを発展的に語れているかを見ます。

ですから、エントリーシートについても「この型に書かないと評価しない」というものは全くありません。基本的には「皆さんがどのような人なのか」「どのような人と原課訪問をすると面白いのか」を考えるための材料です。決まりきったことを書くよりも、自分が本当に経験してきたことや

感じてきたことを率直に書いてくれた方が、私たちとしても官庁訪問でのコミュニケーションがしやすい、というのが正直なところですよ。

佐藤 自分が熱意を持って語りたいと思えることを書いてもらえれば、それは自然と面接でも取り上げられるはずです。ぜひそうしてもらえたいと思います。

仁平 国家公務員の採用では、エントリーシートだけで評価することはありません。むしろ、志望動機を面接で話したり、原課訪問での会話の材料になるようなことを書いてもらえると良いです。部活動でも、ボランティア経験でも、何でも構いません。

原課訪問・人事面接はどこを見ていますか？

佐藤 原課訪問では、経産省の仕事を知ってもらうためにさまざまな部署に訪問してもらいます。そのうえで、皆さんがどう考えるのかを見ていますし、ぜひ知りたいと思っています。ですから、受け身で聞くだけではなく、「自分はどう考えるのか」を意識してほしいですね。そして、「自分がそれをやりたいと思うのかどうか」「この人と働いてみたいかどうか」「この人がロールモデルだと感じられるかどうか」といった視点も大切です。政策を知るだけでなく、人を知るといふ側面もあるので、その両面を体験してほしいです。

人事面接では、基本的に等身大で臨んでもらえればと思います。エントリーシートの延長として、自分が考えていることややりたいことをしっかり伝える場です。原課訪問を通じて何を感じ、何を考えたのかを

伝えてもらえれば十分ですし、質問に対しても自分なりにどう考えるかを答えてくれればいいのです。攻略法のようなものがあるわけではなく、自分の考えを真正面から伝えることが大切だと思っています。

仁平 人事評価で最も重視されるのは、「なぜあなたが経産省に入りたいのか」をパーソナルな面も含めて伝えられるかどうかです。当然、エントリーシートでも「経産省に入りたい」と書くと思いますが、それを官庁訪問の経験を踏まえて語れるかどうかのポイントになります。それが伝われば、「この人は経産省にフィットしているな」というのがわかります。ですから、自分の経験や感じたことをベースに、自分の言葉で語れるかが問われていると思います。

個別具体的な政策への知識やファクトの多さは採用の可否に直結しますか？

仁平 必ずしも直結はしません。繰り返しになりますが、官庁訪問で見ているのは「自分のやりたいこと」、それが「なぜ経産省なのか」、そして「どれだけリアリティを持って語れるか」です。

そのときに知識があれば、具体的に語りやすくなります。例えば、「こういう分野をやりたい」「こういう政策が自分のやりたいことと重なっている」と言いやすくなるので、そういう意味で知識のインプットは良いと思います。ただ、今ある政策を必ずしも語ってほしいわけではなく、自分が経験してきたことや学んできたことを踏まえて、なぜその仕事をやりたいのかを問われているのです。

ですから、政策知識をインプットしてい

ないと答えられないかというと、本質的にはそうではありません。大事なのは知識をどう使うかということです。むしろ、今ある政策やデータをただ頭でっかちに語られても、自分のやりたいことと自分の言葉でつながって語ることができていなければ「なぜ経産省に入りたいのか」が伝わりにくい。そういう意味で、それは違うかなと思います。

やはり、自分の言葉で説明できることが大切、ということでしょうか。

仁平 その通りです。抽象的な言葉やマジックワード、例えば、「経済安保」や「人材の流動性」といったキーワードはもちろん理解できますが、それを「自分の世界の中での、自分のやりたいこととどう関係するのか」を説明できることが一番大事です。イベントに参加する際も、ぜひそうした意識を持ってほしいです。

佐藤 知識だけが重要なのではなくて、それを自分のやりたいこととどうつなげるかが大事です。

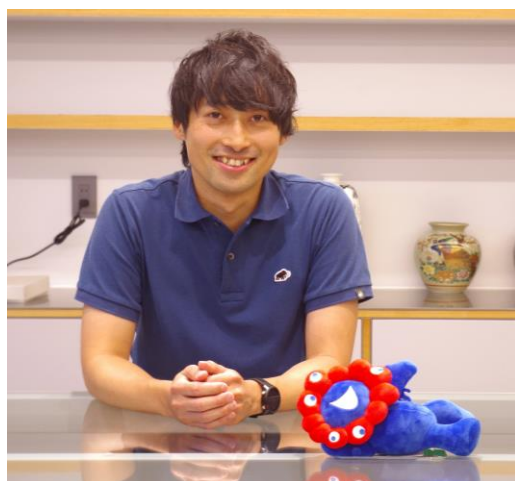


官庁訪問に必要な準備・対策はありますか？

仁平 あえて言うならば、普段のニュースや新聞を見たときに「自分が経産省に入ったらどう貢献できるか」と考えてみることです。仮想のテーマを設定して、それを自分のやりたいこととどうつなげられるかを思考する練習をしておく役立ちかもしれません。私たちが見たいのは、関心分野に限らず、自分のやりたいことや実現したい世界とイベントや官庁訪問の経験を結びつけることができるかです。その場で聞いた話をベースに自分のやりたいことと結びつけられるかどうか、そこでは思考力と想像力が問われます。練習しなくてもできる人はいますが、発想を広げるトレーニングをしておいた方が官庁訪問をより楽しめると思います。

佐藤 理系の立場から言うと、研究テーマから「これをやりたい」と一本筋を立てる人が多いと思いますが、その外側の分野も事前に見ておくの良いと思います。経産省はもっと広い分野を扱っているので、その観点から官庁訪問に臨むと理解が深まります。

仁平 むしろ、「これをやりたい」と明確に言う人ほど、私たちはそれ以外の話も聞きたくなります。例えば、GXは経済安全保障とも中小企業政策とも通商政策ともつながっています。各分野の強みが結びついてGXという政策になるわけです。だから、一見関係なさそうな分野も知っておく意外に役立つ。官庁訪問は、私たちの仕事を疑似体験する場だと思ってもらえればいいと思います。



採用活動に込めた想い — 経産省が求める学生の姿 —

学生に求める能力や素質は何ですか？

仁平 一言でいえば好奇心、新しいことが好き、知らない人が好き、異質なものを許容できる人です。経産省は理系・文系さまざまなバックグラウンドの人がいて、職種が明確にわかれていないわけではなく、同じ空間で法律や予算を作ります。会話が合わないものも常に見て提供してくれる人がいるとポジティブに捉え、新しいものに調整する面白さを知っている人が必須だと思います。

佐藤 難しいことも多いですが、その時に前向きに挑戦できるマインドがある人は向いています。難しいものがあるからこそ頑張るという思いがある人です。

仁平 もう一つは根本として、「パブリックマインド」を持つことです。ニュースを見て感じる社会課題に対して、それを自分が解決する側に立ちたいという思いを持つ人が大前提です。その中で新しい課題や異なる分野の知識に触れるので、好奇心やネットワーク力があることが必要ですね。

これからの経産省の採用活動をどうしていきたいですか？

佐藤 私は、今いる経産省というチームを広げていくことだと思っています。現在の職員が関わっている世界に、さらに多様な人材を加えることで、これまでできていなかったことができるようになったり、進んでいくなかったことが前に進んだりする。そういう世界を目指せるような仲間と一緒に探していきたいと思います。

仁平 採用は、経産省にとって重要なミッションの一つです。優秀な職員を増やすだけでなく、採用活動を通じて学生の皆さんにパブリックマインドを考えてもらう機会にもしたいと思っています。官庁訪問を通して人生や社会について考えた人も多くいますが、結果的に入省しなかった人も含めて、そのきっかけを提供できることが大切です。社会全体が、社会課題解決に向けて頑張るような気運を作り、その中でコアとなる人材を経産省で採用していきたいと思っています。

さらに、皆さん（内定者の私たちへ向け）には、私たちの考えを伝える役割も担ってほしい。採用活動全体は、外の人も含めて社会をより良くしていこうという気運

を高める活動でもあります。その中心となる人材が、結果的に入省する方々であり、同時に伝える側として共感や共鳴を持つてほしいと考えています。パブリックマインドは、より強く求められる能力です。

MVVと採用活動の関係性について教えてください。

経産省のMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）とは？詳しくはこちらをご覧ください！
<https://www.meti.go.jp/intro/mvv/index.html>

仁平 まず、採用の立場からすると、MVVは非常に大事だと思っています。一言で言えるのはありがたいですし、経産省が何をやるべきところなのかを整理する上位概念として必要だと思います。経産省は扱う分野が多岐にわたるので、その根本をまとめる概念としてMVVが役立ちます。

MVVをベースに各分野の政策を作ることと、各政策が「何のためにやっているのか」を説明しやすくなります。例えば「未来に誇れる日本を作る」というMVVがあると、私たち自身が何をやっているか語りやすくなりますし、学生に対して何を重視しているかを問いやすくなります。目の前の課題だけでなく、皆さんの次世代のことを考えたときに、経産省で社会を形作ることに一緒に貢献したいかどうかを問える。そういう意味でも、MVVは採用活動において非常に重要な概念だと思います。

佐藤 私が留学から帰ってきたときに、このMVVが出来ていました。思った以上に職員に馴染んでいるなと感じました。それは、もともと皆が大事にしていたことを言語化しただけなのかなと思います。だから

からこそ、そのMVVに共鳴してくれる学生の皆さんを採用したい、ということだと思えます。

経産省の職員と組織文化

経産省では、どんな職員が活躍していますか？

仁平 経産省には本当にさまざまな職員がいます。活躍の仕方は人それぞれの個性によります。新しいアイデアを持ってきてネットワークをつなぎ、新しい分野を切り開くのが得意な人もいれば、そうした人と協力してデータを集め、分析して政策を支えるのが得意な人もいます。あるいは、政治や産業界を説得するのが得意な人もいます。すべてを完璧にこなせる人はいないので、得意・不得意がありますし、それぞれの分野で必要とされています。アイデアを出す人も、実行に移す人も、データを整える人も必要です。つまり全員が必要で、活躍のパターンは本当に多様なのです。

ただ、共通しているのは、新しい分野や考え方に対して寛容であること、そして前例にとらわれず、ロジックで新しい政策を生み出したり、既存の枠組みを覆したりできることです。だからこそ好奇心が大切で、そこへの貢献の仕方は人それぞれの得意分野によるのだと思います。多様な個の掛け合わせのなかで、どこを伸ばすか、どここの弱い部分を補うかはキャリア設計次第です。「これしかない」という人はいなくて、幅広く経験しながら、特に強みを磨いていく。そのバランスを異動の中で決めていきながら、自分の五角形のどの部分を伸ばし

たいかを考えながらキャリアを積んでいく形ですね。

「官庁訪問を通じて、職員には熱い人が多いと感じました。その理由は？」

佐藤 やはり、パブリックマインド、つまり社会課題に対して「自分がなんとかしたい」という思いを持つ人が、この組織で活躍しているからだと思います。自分の強みを発揮しながら、自分の思いを大切にしているからこそ、表に出るくらい熱い人もいれば、一見落ち着いているけど内に熱さを持っている人もいます。そういう人たちが一緒に頑張っている組織なのだと感じます。

仁平 経産省は、やるのが最初から決まっている組織ではないんです。ツールも明確に決まっていなくて、自分はこのやり方、やりたい」という思いがないと仕事として続けていくことは難しいんですね。その思いこそが「熱さ」につながっているのだと思います。例えば、医療・ヘルスケア分野に問題意識をもって経産省の門を叩く人もいれば、教育に取り組みたいと言って教育産業室を立ち上げた人もいます。熱意がなければ仕事にならない、典型例です。

「自分の核となる価値観が無いと、政策や描きたいビジョンが迷子になってしまうということでしょうか？」

仁平 そうですね。例えば、いま皆さんが「経済安全保障に取り組みたい」「GXをやりたい」と言って経産省に入ってきてますが、5、6年前にはそういう概念はそもそもなかったんです。したがって、当時、そういうことを言う学生はいなかった。これ

は、必然的に降ってきたものではなく、「これが大事だ」と思った人たちがビジョンを描き、それを政府のフレームワークに落とし込み、概念として認められたからこそ、今では当たり前に使われている言葉になっている。熱意がなければ、ここまで前に進むことはできません。誰かが「やれ」とゼロから指示したわけではないのです。

「そうだとすれば、熱いビジョンを持って働く人が多いのは、ある年の採用担当が集めた人材の一過性の傾向ではなく、経産省全体に一貫しているものですか？」

仁平 そうだと思います。そうでないと仕事にならないからです。付け加えるとすれば「現場主義」も重要ですね。現場の話を



聞かないと政策を実行まで持っていけません。新しいことをやろうとすれば、すぐには受け止めてもらえないことも多い。そのときに、熱意がない人では説得できないんです。「政府が言っているから」「経産省が言っているから」ではなく、「あなたはこう思うのか」が問われます。人として信頼されるためにも熱意は不可欠です。熱い思いがあり、それを支えるビジョンがある人に託すからこそ、「この人なら任せれば政策が少し変わるかもしれない」と思ってもらえる。そういう存在が重要だと思います。

佐藤 入省すれば、そういう瞬間が皆さんにもあると思います。人に信頼されたときの感覚は代えがたいですし、やりがいを感じ瞬間だと思います。

経産省の強みー新卒で選ぶメリットは？

佐藤 経産省の魅力は、最初の数年で積み上げる経験の濃さだと思います。入省して3、4年目くらいからは、自分がチームをリードして物事を動かすという仕事を任せられるようになります。そのとき必要なのは全体を俯瞰して理解する力です。細かいことを進めるにしても、どこを押さえるべきかわからないのかを把握し、プロジェクトマネジメントのような役割を担います。そうした経験を若いうちから重ねられるのは、本当に大きな強みだと思います。

仁平 経産省全体のメリットとしては、まず「ダイナミックで意義のある仕事ができる」という点です。学生の皆さんは、自分がどんな成長を遂げられるかを気にすると思いますが、経産省では二十代のうちから

企業の幹部や大学教授といった一線級の力ウンターパートと対等に話さなければなりません。そうした環境に強制的に置かれると、胆力も知識もビジョン・構想力も磨かれていきます。

さらに、そうした一線級の仕事を複数の部署で経験できるのも特徴です。経産省は「個別の分野に特化した省」ではないので、気候変動、産業競争力、経済安保、中小企業対策といった複数の課題が連なったテーマを扱います。たとえばGX一つとっても、気候変動の問題であり、産業政策の問題であり、安全保障や中小企業支援の問題でもある。政策を打つには、その全部をある程度理解する必要があります。だからこそ、自分のキャリアのなかでどういう掛け算を作っていくかが問われます。幅広い領域に触れながら「どこに力点を置くか」を自分で設計できます。社会課題がますます複雑化するなかで、複数の掛け算を持っている人材はどんどん貴重になっていきます。経産省は、それを積極的に養い、自分のキャリアとして設計できる環境だと思います。

ご自身が経産省に出会ったきっかけと、入省を決めた理由は？

佐藤 出会いはサマースクールでした。そこで職員の方々と話す中で、産業界の人たちと直接向き合いながら巻き込んで動かししている姿を見ました。単に制度を運用しているのではなく、「この人だから前に進められた」「この人がいたからうまくいった」という話が多い職場だと感じ、強く惹かれました。

僕は獣医のバックグラウンドがあり、本

来は医療機器の研究開発をしようと思っていました。しかし、考えていくうちに、目の前の患者を救うだけでなく、社会全体が健康で豊かに暮らせる社会経済システムをつくるほうが、自分のやりたいことに近いのではないかと思うようになったんです。それが経産省を選んだ一番の理由です。

仁平 僕もきっかけはサマースクールでした。当時はロースクールで弁護士を目指していて、法律とは「解釈して使うもの」だとして考えていませんでした。でも先輩の話や先輩のうちに、法律は「作れるもの」だと知ったのが新鮮で面白く思いました。しかも、その作る過程には主体性や能動性が必要で、さまざまな人の知恵や視点が組み合わさって初めて形になる。そこは、話し合いのなかで、ストレスもあるけれど（笑）、その分すごく面白い世界だと思いました。

政策は、作り手の想いや知識によってこんなに変わるのか、と衝撃を受けたんです。そうすると「自分だったらどうできるだろう」と考えるようになり、それが大きな決め手になりました。

また、仕事のスタイルを考えても、自分で課題を発見・定義し、その課題に向けて政策というツールを作っていくほうが、自分の性格に合っていると思いました。僕は「チャレンジする人を応援したい」という思いがあり、その思いを実現するうえで経産省は最もふさわしい場所だと感じました。

さらに言えば、キャリアの成長の仕方を考えても、経産省では二十代から主体的に設計できるし、将来どうなっているかが決まっていらない。弁護士だとある程度は道筋

が見えています。経産省は十年後に何の専門性を軸に、どういうキャリアを描いているかまったく予想がつかないのがむしろ、ワクワクする、一番のところでした。

就活生へのメッセージ

佐藤 就職活動では、どうしても自分の経験や得意なことをベースに「何をやるのか」と考えることが多いと思います。しかし、経産省のような場所は、さまざまな挑戦ができるフィールドです。これまでやってきたことにとらわれず、「自分が挑戦してみたいこと」「成し遂げたいこと」を軸に考えてみてください。そして、思い切って飛び込んできてほしいと思います。

仁平 私自身いま三十代ですが、この世代で一流の成果を出している人、何かを成し遂げている人に共通するのは、やはり「熱意」です。ワクワクしながら仕事をしている人こそ、自分だけの世界や、自分にしかたどり着けない知見を築き、それが世の中に大きな付加価値を生んでいると思います。

経産省の中にも、そうした熱意やワクワクを持った人がたくさんいます。だからこそ、自分が一番熱くなれるもの、ワクワクできるものは何かを考えてほしいです。その気持ちを形にする環境として経産省がフィットするのなら、ぜひ飛び込んでください。きっと、同じように熱い思いを持った仲間に出会えるはずですよ。

入省後のあれこれ

● 人事評価制度

半期ごと、半年に1回、業績評価がある。期首に立てた目標の達成度合いに応じて評価を実施する。加えて、1年に1回、能力評価がある。職位毎に求められる能力に応じて評価を実施する。

● 配属希望

例年、5月から7月にかけて人事異動がある。前年の秋頃に提出する希望調査書の内容や面談の内容等を踏まえて配属が決定される。ピンポイントに次の希望部署を伝えるだけではなく、中長期で歩みたいキャリアの方向性を伝えることができる。

● 人事院留学制度

出発年度の夏時点で5～10年目の職員が留学できる。語学力や業務の実績など、総合的な評価で出国の2年前に省内で選抜、その後、出国の1年前に人事院により選抜が行われる。（経産省では、希望者は、語学の基準を満たしさえすればほとんどの人が留学できているようです！）

入省後については、METI CAREER GUIDE もぜひご覧ください！

<https://www.meti.go.jp/information/recruit/career/pdf/METICAREERGUIDE2024.6ver.pdf>

特集 育休・産休とキャリア

仕事とプライベートの両立ができるか不安な方もいらっしゃるのではないのでしょうか？経済産業省でキャリアと子育ての両立は、難しいの？育休を経験された職員の方に経験談を伺いました。

interviewee

石丸明穂さん
(GXグループ地球環境対策室)

年次：16年入省（10年目）

これまでの経験：資源エネルギー庁、貿易経済協力局
投資促進課、大臣官房総務課、産業技術環境局、
中小企業庁、GXグループ地球環境対策室

お子さん：1歳7ヶ月の男の子



interviewee

長谷川圭太さん
(資源エネルギー庁 水素・アンモニア課)

年次：16年入省（10年目）

これまでの経験：資源エネルギー庁、商務情報産業課
法令審査専門官、知財室など

お子さん：11ヶ月の男の子



何割くらいの方がどのくらいの期間、育休を取得されるのでしょうか？

長谷川 省全体として、皆最低一ヶ月は取得することが推奨されています。そのため、男性職員も育休を取得しています。私は、八月に子どもが生まれてすぐに一ヶ月の育休を取得しました。一度職場に復帰してから、年末年始に繋げる形でさらに十ヶ月有給を使って休みました。育休をもっと長く取りたい気持ちもありましたが、子どもが生まれた直後に部署移動があったため、異動後の課員との関係でも仕事の責任を果たしたい気持ちもあり、このような形の育休にしました。一方、生まれる前から育休を一年取ることを同僚に伝えて、業務や人員の調整を済ませてから長期間取得する男性職員もいます。個人の事情に合わせて育休を取ることができると思っています。

石丸 育休は、最大、子が三歳になるまで取得することが可能ですが、私は十ヶ月取得しました。どれくらい休むかは人それぞれですが、前もって周囲の方にお伝えしていれば、希望に応じて休むことができます。

産休・育休の前で働き方はどのように変わりましたか？

石丸 私は、バリバリ働きたいタイプだったので妊娠前は終電帰りやタクシー帰りも多かったのですが、

ですが、妊娠中は、国会対応があまりなくフレキシブルに働ける部署にしてもらいました。今は、保育園のお迎えがあるので、週に三回は定時に帰るようにしています。また、リモートワークもかなり広まってきたので、子どもを寝かしつけた後に自宅で仕事を続けることもできます。

長谷川 私も、子どもが生まれる前はバリバリ働いていましたが、子どもが生まれてからは、早く帰る日やテレワークする日もあります。今は、妻が育休をとっているので保育園のお迎えがなく、石丸さんほどは大きく生活スタイルは変わっていませんが、保育園が始まったからさらに働き方は変わるとしています。

経産省内に保育園があるという噂を聞いたのですが、本当ですか？

石丸 本当です！別館の一階に「経済産業省保育室」があります。経産省以外の省庁にも保育園が併設されていて、他省庁に預けることもできます。ただ、送り迎えの利便性から自宅の近くに子どもを預ける人が多く、省内の保育園は定員に余裕があるらしいです。朝早くから夜遅くまで開園しているので、通勤ラッシュを避けて子どもと一緒に登庁している方もいます。各ご家庭のスタイルに合わせていることができますね。



人事院の留学制度が利用できるのは、入省五年目から十年目と聞きました。多くの人が結婚や出産を考える年齢と被りますが、どのように両立なさっているのでしょうか？

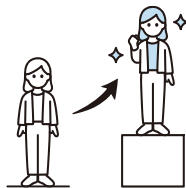
石丸 留学中に出産して育てている方もいらっしゃると思いますし、私のように帰国後に子どもを持つ方もいます。配偶者を日本に残し、子どもを連れて単身で海外に行く方もいます。海外にいる方が早く帰宅することができ、時間の融通が効きやすいというメリットもあります。

長谷川 人事院の制度ではありませんが、経産省内のポジションとして大使館や領事館などへの赴任もあるため、入省十年後以降も海外で働くことはできます。なので、人生の節目と留学期間が被って悩まれた方でも、海外で働くチャンスはたくさんあります。

ご自身のライフプランについて、いつ頃からどのように考えていましたか？

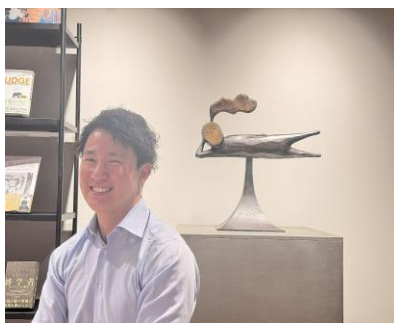
石丸 私は留学する前に結婚して、留学後に子どもを産むことを考えていました。実際その通りになったのですが、十年後のようにずっと先を見据えるというよりは、二、三年先を常に見据えている感じですね。

長谷川 僕は、十年後、二十年後の方が想像しやすいです。エネルギーやGX政策などに関わってみたい、という自分の主軸からはあまりズレておらず、各部署での経験は何かしら繋がっている実感があります。



特集 若手職員インタビュー

経済産業省に入省した自分ってどうなるんだろう？ そんな悩みを持つあなたに、3年目の職員の方へのインタビューをお届けします！
気になる「経済産業省での『働き方』」について取材してみました。



interviewee

古川隼さん

(大臣官房業務改革課 技術系)

年次：2023年入省（3年目）

これまでの経験：デジタル政策、省内の組織経営改革

大学時代に学んだこと：メタバースの社会的意義や歴史に関する研究

趣味：漫画と筋トレ

interviewee

熊谷真帆さん

(製造産業局自動車課 事務系)

年次：2023年入省（3年目）

これまでの経験：局の取りまとめ、能登地震対応、自動車産業の脱炭素化

大学時代に学んだこと：ゼミで交渉学を勉強し、交渉コンペに参加

趣味：旅行。夏休みはまとまった休暇をとって海外旅行。

若手職員からみた経産省の職場環境

初年時の配属はどのように決まりますか？

熊谷 配属決定のプロセスについては、内定後の秋から冬にかけて、秘書課の任用担当の職員と一対一の面談が実施されます。面談では事前に提出する配属希望表をもとに、自分の希望や考慮してほしい点などを伝えられるようになっています。

希望を伝える際のポイントとしては、「この部署に行きたい、この分野がやりたい」というように自分で限定してしまうよりは、自分が重要だと思う要素をいくつか抽出して伝えるのが良いと思います。そうすることで、任用担当の方が面談や官庁訪問で見てきた人柄や関心分野も考慮して、最適な配属がしやすくなるのだと思うと思います。

古川 「こういう上司のもとで働きたい」という伝え方もよいと思います。私自身は、1年目の上司がとてもパワフルな方で、多くの政策がダイナミックに動くのを経験できましたが、その経験は現在の仕事への向き合い方に大きな影響を与えていると思います。他にも例えば、女性のキャリアのロールモデルにできる上司のもとで働きたい、というような伝え方も良いのではないのでしょうか。

若手職員を対象とした研修はありますか？

古川 入省後の研修としては、経産省が実施するものと、人事院が全省庁を対象として実施するものがあります。人事院の研修は入省後の春から夏にかけて数週間に渡って実施され、地方自治体に派遣されて業務を経験したり、1週間ほどの合宿で政策立案の勉強をしたりします。一方で、経産省の研修について言うと、近年大きく拡充されてきています。例えば、1年目職員が毎月1回ワークショップ形式で政策立案を学ぶプログラムが最近開始されました。また研修以外にも、外部専門家を招いた勉強会や、昼休みに集まって先輩職員から過去の政策の裏話やキャリアパスについて話を聞く会など、様々なイベントが活発に開催されています。

若手が成長できる職場の環境は整っていますか？

古川 それは今まさに省を挙げて取り組んでいるところです。例えば上司と部下のコミュニケーションや上司によるフィードバックが積極的に行われることを省全体で促進していて、日々の業務の中で効果的に成長できる環境づくりに注力しています。

また、経産省の組織はレポートラインがはっきりしていて、誰が誰の指導に責任を持つかが明確になっているため、「たての関係」という点では上司が責任を持ってマネジメントしてくれそうです。私の上司は月に1度、一対一の面談をしてくれて、出身地の話題から始まり（笑）、業務で大変なことなどを共有できる機会を設けてくれています。こうした取り組みは省内で広がっていると思います。

熊谷 上司からの指導に加えて、トレーナー・メンター制度というものもあります。1年目の係員に対して直属の係長がトレーナーとして付いて、業務上の分からないことは些細なこと

でも丁寧にサポートします。今私も1年生のトレーナーを担当していて、雑談したりもしながら一緒に楽しく仕事しています（笑）。一方で、メンターは違う部署や同じ部署でも違うラインの少し年次が上の先輩についてもらうことが多い、ご飯に連れて行ってくれたり、相談に乗ってくれたりします。このように、自分からアプローチするのが苦手な人でも、近くの先輩と「ナメの関係」を作ることが制度的にサポートされています。

もう一つ、私がとても良いと思っているのは、経産省には幅広いバックグラウンドの人が集まっていることです。省内には地方の経済産業局や民間企業からの出向者が多く、それぞれの強みを活かして働いていて、お手本にできる人が周りにたくさんいます。例えば、営業畑の経験が長い方はビジネススマナーに精通していて、外部の人とのコミュニケーションの取り方などを勉強させてもらっています。他にも、普段から周りの先輩方に「どうしたらそんなに上手に説明できるんですか」「資料作りの上手ですよ」「ね」などとフランクに声をかけて教えていただけるので、とても助かっています。

若手時代の仕事

若手時代はどのような仕事を担うことになるのでしょうか？

古川 若いうちから大きな舞台に立たせてもらう機会が多いと思います。私が1年生の時に、総理がAIの次世代リーダーと意見交換をする車座を開催しました。その時は入省後1ヶ月ほどだったのですが、官邸に入って、直接総理を見るのができたのは印象に残っています。

また民間の方との検討会などでは、若いうちから自分よりかなり上の役職の方と対等に話をするのが求められる機会が多く、大変なことではありますが、勉強や成長のきっかけになります。

熊谷 若いうちから一人でプロジェクトを回すこともあります。私が現在担当しているプロジェクトでも、各社の部長クラスの方々のカウンターパートとして議論をしながら、検討を進めています。

経産省の肩書の強みは、若いうちから下駄を履かせてもらえることだと思います。「〇〇について話を聞きたい」と思ったら、大学やシンクタンクの専門家などにアポを取って話を聞かせてもらうことができる。視座の高い方々とお話をする、とても有意義で貴重な機会をたくさん作ることができます。

役所の仕事に対して「若いうちは事務作業ばかりで中身のある仕事はできない」というイメージを持っている人もいますが、実際はどうですか？

熊谷 必ずしもそんなことはないと思います。立場によって担当する仕事内容に違いはありますが、若いうちでも中身のある仕事を任せられることは多いです。私が所属する自動車課では、米国の自動車関税の問題が発生した際に、政府としての対応を決めるための大前提として情報整理に取り掛かりました。その際に、何項目にも渡る調査項目を課員で分担したのですが、私自身もその内の一つを担当しました。この時自分が調査した内容や検討した仮説が経産省としての方針を策定するための判断材料の一部として使われることになります。このように、単独で大きな仕事をしている訳ではないとしても、経産省の政策立案の中身に携わっている感覚はあります。

古川 一方、ロジと呼ばれることが多い調整的な事務作業もとても重要な要素です。

私が1年生のときによく言われていたのは、「ロジに付加価値をつける」ということです。例えば他省庁や民間企業との窓口役として大量の情報の交通整理をするときも、たくさんある情報や資料をどのように中身を整理してチームで共有するかは、チーム全体がどれだけ短時間で正確に内容を理解できるかにつながり、それはそのままチームが本質的な業務にどれだけ時間を費やせるかに直結します。日程調整一つとっても、どのように優先順位を付けるかや、何にどれくらい時間を取るかを戦略的に調整することによって、期限までにどこまで達成できるかが決まり、最終的なアウトプットにも影響を与えます。むしろロジが命だとも言え、若いうちに身につけるべき重要なスキルです。

経産省を選んだ理由

就活生時代は何を実現したくて経産省を選んだのですか？ 実際に入省してみて、その思いは実現できると思いますか？

古川 大学時代はメタバースの技術的・社会的背景や歴史を研究していたこともあり、科学技術が適切に社会実装されるためにはどうしたらよいか、ということを考えていました。そのためには、世の中を最も強く動かしている市場や経済をガイドするという視点が必要だと考えて、経産省を志望しました。

実際に入省して、その思いは経産省で実現できるのではないかと考えています。学生の頃には社会が変わるということに実感が持て

2年目研修について

- 福島現地派遣研修は、現地に赴き、福島第一原子力発電所事故について、**経済産業省の最重要課題として**理解を深めます。
- 政策立案研修は、国会対応や予算要求等、より**専門的に役人に必要なスキル**を学びます。東村山で1週間の合宿を行います。
- 企業派遣研修は同期が全国に散らばり、1か月間行います。中小企業の社長のかばん持ちなどをしつつ、**企業経営の実態を見て学びます**。

ませんでした。仕事を通して、国が持っている影響力であったり、どうすれば業界や企業が動くかということが少しずつ理解でき、また実際に様々な政策が形になって成果を上げていく様も見る中で、「世の中って実際に変わるんだな」と実感することがあります。

熊谷 私は、不景気で明るい見通しが持てない社会が嫌だと思っていました。一方で、よりスコープを絞って見てみると、面白いビジネスアイデアを持った人や地域で頑張っている人は日本にたくさんいて、そのような人たちの努力が報われていないのだとしたら、とてももったいないことだと感じていました。その原因が社会構造やビジネス構造によるものなのだとすれば、それは国でしか変えられないと思います、経産省を目指しました。

実際に入省して感じた経産省の強みは、常

に各方面から情報が集まってくることです。集まった情報をもとに多くのステークホルダーの間に立つて課題解決の方向性を定め、ステークホルダーだけでは進まなかったことを前に進めることができる、ということは経産省ならではの感覚でした。

今経産省に関心を持っている就活生に向けて、メッセージをお願いします。

古川 経産省は、幅広い関心やバックグラウンドを持った人が活躍している環境です。「こういう未来をつくりたい」という思いがある人は、ぜひ経産省にきて欲しいと思います。**熊谷** そうですね。経産省では非常に多様な経験ができる環境なので、ファーストキャリアとして、とても良いと思います。

